

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第 1 項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成27年6月29日
【事業年度】	第51期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）
【会社名】	立山黒部貫光株式会社
【英訳名】	TATEYAMA KUROBE KANKO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐伯 博
【本店の所在の場所】	富山県富山市桜町一丁目 1 番36号
【電話番号】	076 - 441 - 3331（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 中川 修
【最寄りの連絡場所】	富山県富山市桜町一丁目 1 番36号
【電話番号】	076 - 441 - 3331（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 中川 修
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第47期	第48期	第49期	第50期	第51期
決算年月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月
営業収益 (百万円)	7,056	5,672	6,286	6,720	6,574
経常利益又は経常損失 (百万円)	137	621	82	259	75
当期純利益又は当期純損失 (百万円)	3	814	977	197	70
包括利益 (百万円)	35	835	1,040	206	71
純資産額 (百万円)	8,637	7,694	6,654	6,791	6,864
総資産額 (百万円)	12,497	12,513	11,917	11,741	11,990
1株当たり純資産額 (円)	919.85	822.90	705.74	720.35	727.99
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	0.43	90.85	108.95	21.98	7.86
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.00	58.99	53.13	55.05	54.48
自己資本利益率 (%)	0.05	-	-	3.08	-
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	684	166	763	817	932
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	434	169	811	320	521
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	508	714	144	550	106
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	806	1,184	1,280	1,226	1,743
従業員数 (人)	372	364	349	330	314
[外、平均臨時雇用者数]	[210]	[173]	[184]	[164]	[192]

(注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2. 当社グループは潜在株式を発行しておりませんので、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、記載しておりません。

3. 第48期、第49期及び当期は当期純損失のため、「自己資本利益率」の記載は行っておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第47期	第48期	第49期	第50期	第51期
決算年月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月
営業収益 (百万円)	4,527	3,490	3,959	4,213	4,177
経常利益又は経常損失 (百万円)	182	495	115	219	105
当期純利益又は当期純損失 (百万円)	30	597	903	220	61
資本金 (百万円)	4,160	4,160	4,160	4,160	4,160
発行済株式総数 (千株)	9,291	9,291	9,291	9,291	9,291
純資産額 (百万円)	8,007	7,358	6,375	6,596	6,587
総資産額 (百万円)	11,132	11,454	10,984	10,745	10,798
1株当たり純資産額 (円)	892.91	820.23	710.55	735.24	734.09
1株当たり配当額 (円)	12.5	-	-	-	-
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	3.36	66.62	100.65	24.52	6.82
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	71.93	64.24	58.03	61.39	61.00
自己資本利益率 (%)	0.37	-	-	3.39	-
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	372.02	-	-	-	-
従業員数 (人)	244	240	229	216	213
[外、平均臨時雇用者数]	[92]	[65]	[70]	[57]	[67]

(注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2. 当社は潜在株式を発行しておりませんので、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、記載しておりません。

3. 第48期、第49期及び当期は当期純損失のため、「自己資本利益率」及び「配当性向」の記載は行っておりません。

2【沿革】

昭和39年12月	立山黒部有峰開発株式会社の調査立案した立山山岳地帯の開発計画に基づき、その中核的ルートである立山室堂から黒部ダム間の交通ルートを建設、並びにその事業運営を目的とした企業体として立山黒部貫光株式会社を設立
昭和41年3月	黒部ケーブルカー工事着工
昭和41年4月	立山トンネル工事着工
昭和42年12月	立山貫光ターミナル株式会社（現・連結子会社）を設立
昭和43年10月	立山ロープウェイ工事着工
昭和44年5月	室堂ターミナル建築工事着工
昭和44年7月	鋼索鉄道（ケーブルカー黒部平・黒部湖間0.8Km）営業開始
昭和45年7月	富山～大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
昭和45年7月	普通索道（ロープウェイ大観峰・黒部平間1.7Km）営業開始
昭和46年4月	一般乗合旅客自動車（トンネルバス室堂・大観峰間3.6Km）営業開始
昭和46年6月	立山黒部アルペンルート全線開通
昭和47年9月	室堂ターミナルビル完成、ホテル立山営業開始
昭和54年10月	立山黒部有峰開発株式会社を吸収合併
昭和61年4月	宇奈月国際ホテル建設工事着工
昭和62年9月	宇奈月国際ホテル完成、営業開始
平成2年10月	立山黒部サービス株式会社（現・連結子会社）を設立
平成5年6月	立山トンネルバス無軌条電車（トロリーバス）工事着工
平成7年12月	一般乗合旅客自動車営業廃止
平成8年4月	無軌条電車（トロリーバス室堂・大観峰間3.7Km）営業開始
平成12年4月	立山貫光ターミナル株式会社が、立山開発鉄道株式会社との間に締結した同社所有の弥陀ヶ原ホテルの「経営委託契約」に基づき、当該ホテルの営業を開始
平成17年10月	当社を存続会社とし、立山開発鉄道株式会社と合併 一般乗合旅客自動車事業（高原バス：美女平・室堂間23.0km）他営業引継
平成21年4月	立山貫光ターミナル株式会社が、当社との間に締結した当社所有の宇奈月国際ホテルの「経営委託契約」に基づき、当該ホテルの営業を開始

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社２社、関連会社１社及びその他の関係会社１社で構成されており、運輸事業、ホテル事業、構内販売事業等の事業を営んでいます。

なお、次の４部門は「第５ 経理の状況 １連結財務諸表等（１）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメント情報の区分と同一であります。

（運輸）

当部門においては、立山黒部アルペンルートにおけるトロリーバス、ロープウェイ、ケーブルカー、路線バス、電車の運行、及び貨物自動車の営業を行っています。

〔関係会社〕

立山黒部サービス株式会社、富山地方鉄道株式会社

（ホテル）

当部門においては、立山黒部アルペンルートの室堂においてホテル立山、弥陀ヶ原において弥陀ヶ原ホテル、宇奈月温泉において宇奈月国際ホテルを営んでいます。

〔関係会社〕

立山貫光ターミナル株式会社

（構内販売）

当部門においては、立山黒部アルペンルートの立山駅、美女平駅、大観峰駅、黒部平駅構内において売店・レストランを営んでいます。

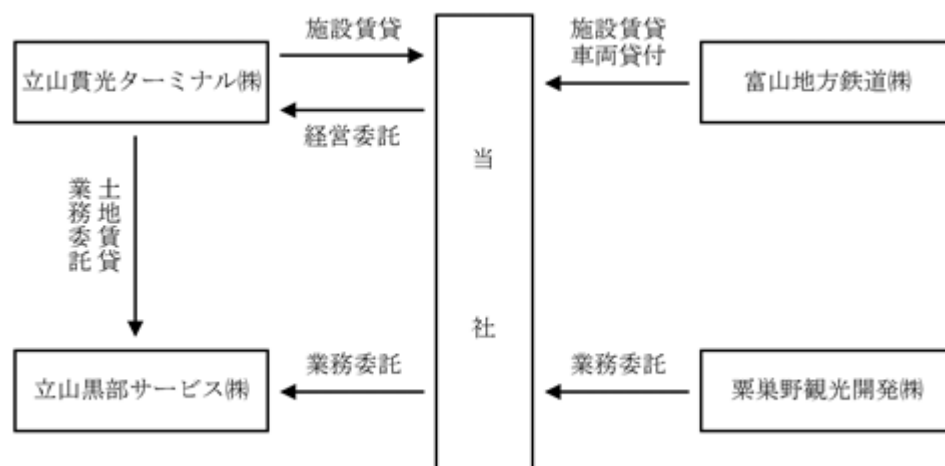
（その他）

当部門においては、立山黒部アルペンルートにおける駅舎等の賃貸、アルペンルートサービスセンターにおいてホテル・レストランの材料購入及び食品加工業務受託、商品販売等を行っています。

〔関係会社〕

立山貫光ターミナル株式会社、立山黒部サービス株式会社、栗巣野観光開発株式会社

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容	摘要
(連結子会社) 立山貫光ターミナル㈱	富山県 富山市	900,000	ホテル事業	71.1	ホテル事業を営んでいます。 役員の兼任等・・・有	* 1 * 3
立山黒部サービス㈱	富山県 富山市	100,000	その他事業	100.0 (35.0)	商品販売や貨物自動車事業等 を行っています。 役員の兼任等・・・有	
(持分法適用の関連会社) 粟巣野観光開発㈱	富山県 富山市	76,000	その他事業	36.0	スキー場営業をNPO団体に譲 渡し、施設を賃貸していま す。 役員の兼任等・・・有	
(その他の関係会社) 富山地方鉄道㈱	富山県 富山市	1,557,717	運輸事業	24.8	立山黒部アルペンルート内の 運輸事業を営んでいます。 役員の兼任等・・・有	* 2

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しています。

2. * 1: 特定子会社に該当します。

3. * 2: 有価証券報告書を提出しています。

4. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合を内数で表示しています。

5. * 3: 立山貫光ターミナル㈱については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えています。

主要な損益情報等	(1) 売上高	2,622,243千円
	(2) 経常損失	56,213千円
	(3) 当期純損失	35,052千円
	(4) 純資産額	1,089,724千円
	(5) 総資産額	1,876,476千円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
運輸	131 [32]
ホテル	87 [110]
構内販売	13 [16]
その他	8 [11]
全社（共通）	75 [23]
合計	314 [192]

（注）１．従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しています。

２．臨時従業員数は、パートタイマー及び季節雇用者です。

(2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
213[67]	41.8	18.4	5,014,665

（注）１．従業員数は就業人員であり、富山地方鉄道株式会社からの出向社員（70人）を含んでおり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しています。

２．臨時従業員は、パートタイマー及び季節雇用者です。

３．平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいます。

(3) 労働組合の状況

当社グループには、立山黒部貫光労働組合が組織されており、組合と会社との関係はきわめて正常であり、数次の賃金交渉も円満に解決しております。

平成27年3月31日現在の組合員数は178人であります。

なお、従業員中には富山地方鉄道株式会社からの出向従業員がありますが、母体会社・組合との間で協議し、円満な相互協力により出向従業員を受け入れています。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度の業績は、営業収益が6,574,035千円と前連結会計年度に比べ146,864千円の減収、営業利益が51,647千円、経常利益が75,307千円、当期純損失は70,571千円となりました。セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、「第2 事業の状況」及び「第3 設備の状況」については、消費税等抜きで記載しております。

運輸事業

当期のわが国経済は、消費税増税の影響による消費の減退が長期化したものの、継続的な経済対策や金融政策を背景に、雇用や所得環境および設備投資に改善がみられる等、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。

観光業界におきましては、国内旅行は減少傾向となりましたが、円安進行による割安感や査証緩和等が追い風となり、訪日旅客数は1,341万人と過去最高を記録しました。その一方で、貸切バスや宿泊施設の不足が顕著となる等、受け入れ態勢の整備が課題となりました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、前年同様、4月10日に富山側の立山～弥陀ヶ原間の営業を再開し、4月16日には、立山～信濃大町間が全線で営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、集客力の高い「立山・雪の大谷ウォーク」の開催期間を6月22日まで延長（前年6月10日まで）したこと等により、6月までは前年を上回る好調なスタートとなりました。しかしながら、7月以降は、度重なる台風の上陸や日本各地を襲った集中豪雨の影響により、当日売り個人客の出控えや、団体予約の取り消しが多く発生したため低調に推移し、各月で前年を下回る結果となりました。

この結果、当期の入り込み人員は、合計909千人（対前年95%、49千人減）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みは472千人（対前年101%）と前年を上回りましたが、大町入り込みは黒部ダム往復客の落ち込みが大きく、437千人（対前年89%）となりました。

旅客の内訳では、国内旅客は、旅行形態の団体型から個人型へのシフトが進み、これまで以上に台風等の天候不順の影響を大きく受ける形となり、また消費税増税や高速道路のETC割引率減少の影響も重なった結果、入り込み合計が738千人（対前年91%、74千人減）となりました。

一方、訪日旅客は、ビジットジャパンキャンペーンや富山～台北定期便の増便等により、特に4～5月が大幅な増加となり、主要国の台湾が126千人に達する等、訪日団体合計では、過去最高の171千人（対前年118%、25千人増）となりました。また、訪日個人客の増加傾向も顕著にみられました。

この結果、営業収益は3,506,399千円（前連結会計年度比1.2%減）、営業利益は201,862千円（前連結会計年度比40.0%減）となりました。

（提出会社の運輸成績表）

鋼索鉄道事業（黒部ケーブルカー）

項目	単位	当連結会計年度 (26.4.1～27.3.31)	対前年増減率(%)
営業料	料	0.8	0.0
営業日数	日	229	0.0
客車走行料	料	15,842	2.7
旅客輸送人員	人	690,990	2.5
旅客運輸収入	千円	430,317	2.7
運輸雑収	千円	1,374	15.6
収入合計	千円	431,692	2.8
1日営業1料あたり運輸収入	千円	2,356	2.8
1日平均客車走行料	料	69	3.0
1日平均旅客輸送人員	人	3,017	2.5
1日平均運輸収入	千円	1,885	2.8
乗車効率	%	27	5.0

（注） 1. 26.4.1～26.4.15・26.12.1～27.3.31 積雪のため営業休止

2. 乗車効率の算出方法
$$\frac{(\text{営業料} \times \text{旅客輸送人員})}{(\text{客車走行料} \times \text{平均定員})} \times 100$$

鋼索鉄道事業（立山ケーブルカー）

項目	単位	当連結会計年度 (26. 4 . 1 ~ 27. 3 . 31)	対前年増減率（％）
営業料	料	1.3	0.0
営業日数	日	235	0.0
客車走行料	料	28,753	4.2
旅客輸送人員	人	732,718	0.4
旅客運輸収入	千円	401,492	0.5
運輸雑収	千円	3,398	7.4
収入合計	千円	404,890	0.5
1日営業1料あたり運輸収入	千円	1,325	0.5
1日平均客車走行料	料	122	4.7
1日平均旅客輸送人員	人	3,118	0.4
1日平均運輸収入	千円	1,722	0.5
乗車効率	％	28	4.7

（注） 1 . 26.4.1～26.4.9 積雪のため営業休止

26.12.1～27.3.31 積雪のため営業休止

2 . 乗車効率の算出方法
$$\frac{(\text{営業料} \times \text{旅客輸送人員})}{(\text{客車走行料} \times \text{平均定員})} \times 100$$

普通索道事業

項目	単位	当連結会計年度 (26. 4 . 1 ~ 27. 3 . 31)	対前年増減率（％）
営業料	料	1.7	0.0
営業日数	日	229	0.0
客車走行料	料	39,872	0.7
旅客輸送人員	人	678,442	2.1
旅客運輸収入	千円	636,089	2.0
運輸雑収	千円	1,417	16.5
収入合計	千円	637,506	2.1
1日営業1料あたり運輸収入	千円	1,637	2.1
1日平均客車走行料	料	174	0.7
1日平均旅客輸送人員	人	2,963	2.1
1日平均運輸収入	千円	2,783	2.1
乗車効率	％	36	2.8

（注） 1 . 26.4.1～26.4.15・26.12.1～27.3.31 積雪のため営業休止

2 . 乗車効率の算出方法
$$\frac{(\text{営業料} \times \text{旅客輸送人員})}{(\text{客車走行料} \times \text{平均定員})} \times 100$$

無軌条電車事業

項目	単位	当連結会計年度 (26. 4 . 1 ~ 27. 3 . 31)	対前年増減率 (%)
営業料	料	3.7	0.0
営業日数	日	229	0.0
客車走行料	料	89,962	2.1
旅客輸送人員	人	657,945	1.3
旅客運輸収入	千円	1,027,235	1.3
運輸雑収	千円	1,742	16.0
収入合計	千円	1,028,977	1.3
1 日営業 1 料あたり運輸収入	千円	1,214	1.3
1 日平均客車走行料	料	393	2.0
1 日平均旅客輸送人員	人	2,873	1.3
1 日平均運輸収入	千円	4,493	1.3
乗車効率	%	38	0.7

(注) 1 . 26.4.1 ~ 26.4.15 ・ 26.12.1 ~ 27.3.31 積雪のため営業休止
2 . 乗車効率の算出方法 $\frac{(\text{営業料} \times \text{旅客輸送人員})}{(\text{客車走行料} \times \text{平均定員})} \times 100$

自動車事業

項目	単位	当連結会計年度 (26. 4 . 1 ~ 27. 3 . 31)	対前年増減率 (%)
営業料	料	85.6	0.0
営業日数	日	343	0.0
延人料	人料	17,380,281	1.1
車両走行料	料	647,414	0.9
旅客輸送人員	人	764,333	0.6
旅客運送収入	千円	967,592	0.5
運輸雑収	千円	7,348	4.5
収入合計	千円	974,941	0.6
1 日営業 1 料あたり運送収入	千円	33	0.6
1 日平均車両走行料	料	1,888	0.9
1 日平均旅客輸送人員	人	2,228	0.6
1 日平均運送収入	千円	2,842	0.6
乗車効率	%	49	0.9

(注) 1 . 弥陀ヶ原線 26.4.1 ~ 26.4.9 ・ 26.12.1 ~ 27.3.31 積雪のため営業休止
極楽坂線 26.4.1 ~ 26.12.13 営業休止
称名滝線 26.4.1 ~ 26.4.15 ・ 25.11.11 ~ 26.3.31 営業休止
2 . 乗車効率の算出方法 $\frac{\text{延人料}}{\text{車両走行料} \times 1 \text{ 両平均定員}} \times 100$

(業種別営業成績)

業種別	当連結会計年度 (26.4.1～27.3.31)	
	営業収益(千円)	対前期増減率(%)
鋼索鉄道事業(黒部ケーブルカー)	431,692	2.8
鋼索鉄道事業(立山ケーブルカー)	404,890	0.5
普通索道事業	637,506	2.1
無軌条電車事業	1,028,977	1.3
自動車事業	974,941	0.6
貨物自動車事業	28,391	5.5
合計	3,506,399	1.2

ホテル事業

立山黒部アルペンルートの営業再開に合わせ、4月10日に弥陀ヶ原ホテルが、そして4月16日にホテル立山が営業を再開し、弥陀ヶ原ホテルは11月4日まで、ホテル立山は11月30日まで営業いたしました。

当期の営業の経過は、ホテル立山と弥陀ヶ原ホテルでは、「雪の大谷」人気に支えられ、6月までは好調に推移しましたが、7月以降は、度重なる台風の上陸や日本各地を襲った集中豪雨災害の影響により、予約取消が多く発生し、特に単価の高い時期に重なったことで、宿泊人員の減少に比べ減収幅が大きくなりました。

その結果、ホテル立山の宿泊人員は33,303人(対前年比99%)となり、宿泊収入は同比96%、食堂収入は同比100%、売店収入が同比97%、収入合計では同比97%となりました。

また、弥陀ヶ原ホテルの宿泊人員は15,633人(対前年比98%)、宿泊収入は同比95%、食堂収入は同比95%、売店収入は同比97%、収入合計では同比95%となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、7月以降、全国的な天候不順の影響を受け、また宇奈月温泉全体の減少傾向のなかで、シーズンを通じて低調な動きとなりました。これにより、宿泊人員は24,147人(対前年比90%)、宿泊収入は同比91%、売店等を加えた収入合計では同比89%となりました。

この結果、営業収益は2,446,205千円(前連結会計年度比4.3%減)、営業損失は252,828千円(前連結会計年度は216,417千円の営業損失)となりました。

(業種別営業成績)

業種別	当連結会計年度 (26.4.1～27.3.31)	
	営業収益(千円)	対前期増減率(%)
宇奈月国際ホテル	400,285	10.5
ホテル立山	1,709,947	2.5
弥陀ヶ原ホテル	335,971	5.1
合計	2,446,205	4.3

構内販売事業

営業収益は589,527千円（前連結会計年度比1.3%増）、営業利益は59,862千円（同20.8%減）となりました。

（業種別営業成績）

業種別	当連結会計年度 (26.4.1～27.3.31)	
	営業収益（千円）	対前期増減率（％）
売店	451,350	1.6
レストラン	125,474	9.3
その他	12,703	44.5
合計	589,527	1.3

その他事業

営業収益は245,078千円（前連結会計年度比0.4%増）、営業利益は25,360千円（同62.8%増）となりました。

（業種別営業成績）

業種別	当連結会計年度 (26.4.1～27.3.31)	
	営業収益（千円）	対前期増減率（％）
商品販売	145,884	1.2
建物等賃貸	26,432	1.3
業務受託	78,131	3.0
消去	5,369	0.5
合計	245,078	0.4

（2）キャッシュ・フロー

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ516,795千円増加し、当連結会計年度末には1,743,330千円（前連結会計年度比42.1%増）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、932,288千円（前連結会計年度比14.1%増）であります。これは、税金等調整前当期純損失144,871千円（前連結会計年度は219,301千円の当期純利益）を計上しましたが、これが減価償却費628,518千円（前連結会計年度比1.3%減）、減損損失228,166千円（同400.7%増）を計上したことによるものであることからです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、521,981千円（前連結会計年度比63.1%増）であります。これは主に、有形固定資産及び無形固定資産の取得559,292千円（同21.3%減）によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、106,489千円（前連結会計年度は550,840千円）であります。これは主に、長期借入金の借入600,000千円（前連結会計年度比同66.7%増）、約定弁済391,500千円（同6.3%減）によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは、生産及び受注は行っておりません。

販売の状況については、「１．業績等の概要」におけるセグメントごとに業績に関連付けて示しております。

3【対処すべき課題】

去る3月14日、待望の北陸新幹線延伸が実現し、東京～富山間が最短2時間8分で結ばれました。さらに、10月からはJRグループ6社による「北陸ディスティネーションキャンペーン」が開催される等、今年度は例年になく北陸への熱い視線が寄せられています。これを大きな好機と捉え、積極的な誘客促進および受け入れ態勢の整備に努めてまいります。さらに、アルペンルートの知名度、認知度の向上を図り、「立山黒部」ブランドを確立することにより、今後の経営環境の変化に柔軟に対応できる安定的な経営基盤を固めてまいります。

営業施策

国内旅客については、近年、旅客の個人化が益々高まり、従来の団体型旅客が主流であった時代に比べ、天候状況に左右される傾向が強くなってきました。この天候リスクを少しでも回避するために、割安で利便性の高いWEBきっぷによる事前販売の推進と、山岳景観のみに頼らない付加価値の創出と発信を進めてまいります。壮大な山岳ルートを乗り継いでいく乗り物自体の訴求力を高めるために、今年度から立山高原バスの天井部分をガラス張りにした『E～SORA「立山パノラマバス」』を1輦導入いたしました。特に「雪の大谷」や新緑、紅葉の時期には、これまで以上に立山の魅力をダイナミックに感じていただけるものと期待しております。

訪日旅客については、近年、順調に来訪数を増やしてまいりましたが、これからも安定した誘客に向け、マーケットの成熟度にあわせた効果的なセールス展開やプロモーションを強化してまいります。台湾や東南アジアのお客様には「雪の大谷」ブランドが定着してまいりましたが、その他の季節の魅力発信にも注力し、季節の平準化を目指します。また、近年、訪日個人客も大きく伸びてきており、これらに対する情報発信の改善と充実に努めてまいります。

一方で、特に「雪の大谷」時期の混雑と待ち時間発生が目立ってまいりましたが、混雑予想を事前に発信するとともに、立山ケーブルカーの輸送能力を鑑みた予約調整を行うことで、少しでも待ち時間を解消できるよう努めてまいりたいと存じます。さらに混雑予想日には「立山博物館」への無料シャトルバスを運行させる等、待ち時間の有効活用にも注力してまいります。

このたびの北陸新幹線開業を契機として、二次交通を絡めたこれまでにない広域観光圏の構築が可能となる等、交流人口の拡大が大いに期待されるところであります。地域の多様な魅力を組み合わせた地域全体のブランド構築に向け、富山、長野両県を結ぶ、立山黒部アルペンルートの果たすべき役割は大きく、両県のみならず、周辺各県や観光地との連携を図りながら、相乗的な魅力創出に努めてまいりたいと存じます。

安全・安心の確保

輸送の安全に関する目標としまして、「安全基本方針」、「安全目標」、「重点安全施策」を掲げ、運輸安全マネジメントの取り組みを充実・強化しています。

事業遂行の大前提である、安全、安心の確保に努めるため、全役職員一丸となり、法令遵守と安全最優先を徹底するため、安全運行管理体制を構築し、その継続的な改善に取り組みます。また、レストラン、売店における食の安全にも万全を期してまいります。

全職場では、安全風土の構築や安全意識の浸透をはかり、定期点検等の徹底により支障発生の未然防止に取り組むとともに、万一の支障発生時における迅速かつ的確な対応のための体制の維持向上に努めます。

自然環境の保全

平成27年度の営業再開は、関係機関のご協力ご配慮を得て、4月10日に富山側は立山から弥陀ヶ原までが部分再開し、4月16日に全線で営業を再開いたしました。営業再開にあたっては、これまで同様、早春の立山一帯における旅客の安全と自然環境保全に対する理解の周知徹底を行い、万全を期してまいりました。

また、環境にやさしい輸送手段の維持更新、ごみ処理対策の徹底、美化清掃活動の推進、外来植物繁殖等への対策等、引き続き、立山の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

今後とも自然公園法の目的に添い、自然にふれあい、自然のすばらしさを知ってもらえるよう、観光と環境保全の調和をはかり、関係機関と連携して立山黒部の大自然を広く紹介してまいります。

4【事業等のリスク】

当社グループは、主として、中部山岳国立公園、立山・黒部地域において、旅客運輸事業、ホテル事業、構内販売事業等を営業しておりますが、事業の中核を担っているのは、「立山黒部アルペンルート」の中央部を構成するケーブルカー、ロープウェイ、トロリーバス、高原バスの運輸事業であり、この事業の状況次第で、他の事業の営業成果に大きな影響を及ぼす構造となっております。

また、当社事業が、日本有数の山岳地帯という特殊な環境において、代替運輸機関のない旅客輸送事業を営業しているという特性により、山岳地帯特有の悪天候の影響やその他の理由によりルート内の自社輸送機関および隣接他社輸送機関において、一部輸送機関に不通等が発生した場合、自社旅客輸送機関及びホテル事業等他の事業の全般にわたって、大きな影響を受けざるを得ない構造を有しております。

さらに、現在「立山黒部アルペンルート」は、豪雪等のため、年間の営業期間を4月10日から11月30日までの期間のみとし、冬期間の営業休止を余儀なくされておりますが、約8ヶ月の営業期間中、大型連休がある5月、夏期の8月、紅葉期の10月の3ヶ月間の入り込み客数が年間の入り込みの5割超となっており、特定シーズンの営業状況によっては、年間の営業成果に大きな影響が及ぶ可能性があります。

もとより、当社においては、他の運輸機関、関連宿泊施設等との連携のもと、輸送の安全と安定的運行には万全の体制を構築しており、万一の場合にも旅客の安全確保と混乱回避を最優先に、日頃から十分な対策を講じているところですが、今後さらに改良改善をすすめて参ります。

今後とも、利用客に対し「自然にふれあい、自然のすばらしさを知ってもらうこと」を念頭に、立山黒部の環境保全と観光の共存を目指すことは極めて意義のあることと受け止めており、関係機関とともに調査検討を進めて参ります。加えて、種々の営業施策の実施により、いわゆる閑散期対策にも引き続き重点的に取り組み、新たな旅客の掘り起こしと入り込み客数の平準化に努めて参ります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

5【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債および収益・費用の報告金額および開示に影響を与える見積りを必要とします。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等」の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載してあります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の営業収益は6,574,035千円（前連結会計年度比2.2%減）であり、運送営業費及び売上原価3,890,926千円（同1.3%増）と、販売費及び一般管理費2,631,461千円（同0.6%減）を控除した営業利益は51,647千円（同77.5%減）となりました。これに、営業外収益52,698千円（同14.7%減）と営業外費用29,037千円（同9.9%減）を加減した経常利益は75,307千円（同71.0%減）となりました。さらに特別利益35,436千円（同73.7%減）、特別損失255,614千円（同46.1%増）を加減した税金等調整前当期純損失は144,871千円（前連結会計年度は219,301千円の税金等調整前当期純利益）となり、法人税等合計 65,014千円（同 16,335千円）を計上した結果、少数株主損失9,285千円を差し引いた当期純損失は70,571千円（同197,267千円の当期純利益）となりました。

当連結会計年度は、前年度に東日本大震災の影響から緩やかながらも着実な回復をみせたことで、当社の命題であるアルペンルート100万人観光地の復活に向けスタートしました。4月から6月までは、国内の団体、個人客および訪日団体客の全ての客種において好調で、なかでもビジットキャンペーンや富山～台北定期便の増便等により、訪日団体客の増加が顕著でした。しかし、7月以降はバス規制の強化により国内団体客が減少、さらに度重なる台風の上陸や集中豪雨などにより国内個人客も減少したことで、大幅に落ち込み、その結果909千人の入り込みに終わりました。このようにアルペンルートへの入り込み数は減少しましたが、営業収益に直結する当社線利用人員の確保に努力し、減収を最小限に留めました。また、数年前より入り込み数が90万人前後でも利益を確保できるよう人件費、物件費など経営全般にわたる効率化に努めてきたことが効果を現し、当年度においても営業利益を確保いたしました。

なお、事業別の売上及び営業利益の概況については、第2「事業の状況」に記載しております。

(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは、税金等調整前当期純損失144,871千円となりましたが、これは主として減損損失228,166千円を計上したことによるもので、前連結会計年度より115,277千円多い932,288千円の資金獲得となっております。投資活動によるキャッシュ・フローでは、ハイブリッドバスの更新等により、前連結会計年度に比べ201,973千円多い521,981千円の資金の使用となっております。財務活動によるキャッシュ・フローでは、長期借入金の増加により106,489千円の獲得（前連結会計年度は550,840千円の資金使用）となっております。この結果、現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度の1,226,534千円から516,795千円増加して、1,743,330千円となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）では、当連結会計年度において、運輸事業を中心に全体で599,649千円の設備投資を実施しました。

運輸事業においては、施設改善、安全対策等のために443,269千円の設備投資を実施しました。

ホテル事業においては、施設改善等、サービス向上のため115,784千円の設備投資を実施しました。

構内販売事業においては、施設改善等のため31,119千円の設備投資を実施しました。

その他事業においては、施設改善等のため、9,476千円の設備投資を実施しました。

なお、固定資産の重要な売却・撤去又は滅失はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）の当連結会計年度末における設備の状況は、次のとおりであります。

(1) セグメント総括表

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	帳簿価額（千円）					従業員数 （人）
	建物及び構築物	機械装置及び 運搬具	土地 （面積㎡）	その他	合計	
運輸事業	2,471,416	1,042,164	33,463 (40,085) [113,428]	17,719	3,564,763	131 [32]
ホテル事業	1,791,866	20,721	290,990 (7,521) [27,951]	127,590	2,231,168	87 [110]
構内販売事業	186,833	1,675	- - [11,230]	11,075	199,584	13 [16]
その他事業	1,714	18,329	98,155 (3,505)	985	119,184	8 [11]
小計	4,451,830	1,082,890	422,610 (51,111) [152,609]	157,370	6,114,701	239 [165]
全社	206,178	24,805	1,780,282 (177,145) [636]	51,540	2,062,806	75 [23]
合計	4,658,008	1,107,696	2,202,892 (228,255) [153,245]	208,910	8,177,507	314 [192]

（注）1．帳簿価額「その他」は、工具器具備品であります。

2．土地を賃借しています。賃借料は31,441千円であります。賃借面積は〔 〕で外書きしています。

3．従業員数の〔 〕は、臨時従業員数であり、年間の平均人員を外書きしています。

4．各事業関連固定資産は、全社資産に記載しています。

(2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

事業所名 (主な所在地)	セグメント の名称	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
鋼索鉄道(黒部平駅他) (富山県中新川郡立山町)	運輸事業	272,330	39,174	- [8,170]	2,383	313,888	18 [6]
鋼索鉄道(立山駅他) (富山県中新川郡立山町)	運輸事業	757,270	342,710	6,686 (17,424) [23,758]	3,059	1,109,727	20 [8]
普通索道(大観峰駅他) (富山県中新川郡立山町)	運輸事業	491,494	246,696	- [41,117]	6,212	744,403	19 [2]
無軌条電車(室堂駅他) (富山県中新川郡立山町)	運輸事業	565,093	72,143	- [34,997]	1,879	639,116	26 [6]
自動車事業(美女平駅他) (富山県中新川郡立山町)	運輸事業	81,833	334,873	26,777 (22,660) [5,386]	4,183	447,668	48 [6]
構内販売(黒部平他) (富山県中新川郡立山町)	構内販売事業 ホテル事業	1,633,308	2,271	290,990 (7,521) [32,425]	82,460	2,009,031	13 [16]
各事業関連(本社他) その他 (富山県富山市他)	全社	163,113	17,399	1,759,364 (172,974) [636]	47,776	1,987,654	69 [23]
小計		3,964,444	1,055,269	2,083,819 (220,580) [146,489]	147,956	7,251,489	213 [67]

(A) 鋼索鉄道事業（従業員 38 人）

黒部ケーブルカー

イ 土地、建物及び構築物

停車場	住所	用地				建物及び構築物	
		面積（㎡）			帳簿価額 （千円）	帳簿価額 （千円）	
		線路	停車場	計			
2ヶ所 黒部平駅 黒部湖駅	富山県 中新川郡 立山町	[5,886]	[2,284]	[8,170]	-	272,330	

（注）１．用地は国有地であり、富山森林管理署より使用許可を受けております。

２．黒部湖駅建物は、関西電力株式会社所有で賃借しております。

３．黒部平駅建物は、地下ケーブルとロープウェイで共用しております。

ロ 路線延長及び電路施設

営業杆	軌間	本線延長		単線換算延長			変電所設備
		単線	計	本線	側線	計	
0.8Km	1.067m	828m	828m	828m	121.1m	949.1m	北陸電力㈱の変電所より供給

ハ 車両設備

車両	車両数	1両当たりの乗車定員	摘要
鋼索四輪客車	2両	131人	

立山ケーブルカー

イ 土地、建物及び構築物

停車場	住所	用地					建物及び構築物	
		面積（㎡）				帳簿価額 （千円）	帳簿価額 （千円）	
		線路	停車場	送電線路	その他	計		
2ヶ所 立山駅 美女平駅	富山県 中新川郡 立山町	[10,548]	17,138	[11,053]	285 [2,157]	17,424 [23,758]	6,686	757,270

（注） 用地のうち、国有地面積は〔 〕で外書きしており、富山森林管理署より使用許可を受けております。

ロ 路線延長及び電路施設

営業杆	軌間	本線延長		単線換算延長			変電所設備
		単線	計	本線	側線	計	
1.3Km	1.067m	1,375m	1,375m	1,375m	120m	1,495m	

ハ 車両設備

車両	車両数	最大乗車人員または積載量	摘要
鋼索四輪客車	2両	121人	
鋼索四輪貨車	2両	6.3屯	

(B) 普通索道事業（従業員 19 人）

イ 土地、建物及び構築物

停車場		住所	用地				建物及び構築物	
			面積（㎡）				帳簿価額 （千円）	帳簿価額 （千円）
			索道敷	停車場	広場	計		
2ヶ所	大観峰駅 黒部平駅	富山県 中新川郡 立山町	[23,951]	[4,540]	[12,626]	[41,117]	-	491,494

（注） 用地は国有地であり、富山森林管理署より使用許可を受けております。

ロ 線路設備

方式	延長	支索 最急勾配	支索間隔 （ゲージ）	支柱	懸吊機	動力
4線交走式	水平長 1,638.84m 斜長 1,710.46m	27°30′	11.10m	なし	10組 （片側5組）	電気

ハ 搬器設備

構造及び数	乗車定員（人）				運転速度及び 1時間当り最大輸送人員	
	座席	立席	車掌	計		
軽合金製閉鎖式箱型 2台	8	72	1	81	5m/秒の場合 1,180人 7.5m/秒の場合 1,520人	

(C) 無軌条電車事業（従業員 26 人）

イ 土地、建物及び構築物

停車場		住所	用地				建物及び構築物	
			面積（㎡）				帳簿価額 （千円）	帳簿価額 （千円）
			トンネル	駅	その他	計		
3ヶ所	室堂 （雷殿） 大観峰	富山県 中新川郡 立山町	[21,768]	[848]	[12,381]	[34,997]	-	565,093

（注） 用地は国有地であり、富山森林管理署より使用許可を受けております。

ロ 路線及び電路設備

種類	延長	単線複線の別	最急勾配	変電設備
鉄道線路	3,841m	単線	50‰	雷殿変電所

ハ 車両

種類	記号番号	車両数	1両当たりの乗車定員
無軌条電車 〔旅客車・直流電車〕	8000型	8両	72 + 1 = 73人

(D) 自動車事業（従業員４８人）

イ 土地、建物及び構築物

名称	所在地	土地		建物及び構築物	摘要
		面積（㎡）	帳簿価額（千円）	帳簿価額（千円）	
弥陀ヶ原駅	富山県中新川郡立山町	[652]	-	5,495	
室堂駅	〃	-	-	14,411	
美女平園地緑地帯	〃	[4,454]	-	1,894	
美女平車庫	〃	4,402	220	19,791	
美女平駅前広場	〃	-	-	779	
美女平駐車場	〃	-	-	611	
寺田車庫	〃	2,155	19,163	3,539	
給油所	〃	-	-	6,046	
千垣用地	〃	8,397	419	-	
粟巣野用地	富山県富山市大山町	1,754	52	1,766	
花切用地	〃	2,476	71	-	
立山駅裏用地	富山県中新川郡立山町	1,917	107	3,304	
立山バスセンター	〃	806 [280]	2,959	21,999	
千寿用地	〃	750	3,783	-	
その他		-	-	2,192	
計	-	22,660 [5,386]	26,777	81,833	

（注）１．用地のうち、国有地は富山森林管理署より使用許可を受けております。

２．給油所建物は、鋼索鉄道事業美女平駅用地の上に建立されています。

(E) 構内販売事業（従業員１３人）

名称	所在地	土地		建物及び構築物
		面積（㎡）	帳簿価額（千円）	帳簿価額（千円）
大観峰・黒部平駅売店 レストラン黒部平	富山県中新川郡立山町	[11,230]	-	135,105
弥陀ヶ原ホテル	〃	[21,195]	-	1,013,198
美女平駅売店	〃	-	-	2,064
立山駅売店 レストランアルペン	〃	-	-	4,214
セントラルパーク レストラン	富山県富山市大山町	-	-	45,448
宇奈月国際ホテル	富山県黒部市宇奈月 温泉	7,521	290,990	433,276
その他	〃	[585]	-	-
計		7,521 [33,010]	290,990	1,633,308

(注) 1. 用地のうち、国有地は富山森林管理署より使用許可を受けております。

2. 宇奈月国際ホテルの土地は、収益性の低下により投資額を回収する目途が立たないため、減損損失を認識し、帳簿価額を回収可能額まで減額してあります。

3. その他の土地は連結会社以外から賃借しております。

(F) 各事業関連・その他(従業員69人)

名称	所在地	土地		建物及び構築物	摘要
		面積(㎡)	帳簿価額(千円)	帳簿価額(千円)	
運輸課(室堂)	富山県中新川郡立山町	-	-	23,994	
室堂駐車場他	"	[636]	-	95,172	
美女平舗装路面他	"	-	-	3,155	
美松貯蔵施設	"	-	-	646	
立山研修会館	富山県富山市	648	137,200	3,254	木造2階建
稲荷町事務所	"	16,389	1,496,968	23,841	鉄筋コンクリート造2階建
黒部山荘	長野県大町市	1,453	14,200	3,909	木造2階建
大町営業所	"	187	26,612	1,298	鉄筋平家建
大町駐車場	"	3,779	30,531	5,893	雪上車庫
その他賃借事務所	富山県富山市他	-	-	1,946	本社事務室他
宇奈月コーポ	富山県黒部市	1,717	40,787	-	遊休資産
その他	長野県大町市他	148,801	13,066	-	遊休土地
計	-	172,974 [636]	1,759,364	163,113	-

(注) 1. 運輸課(室堂)の建物は立山貫光ターミナル株式会社から賃借しております。

2. 運輸課(室堂)及びその他の賃借事務所の建物帳簿価額は、間仕切り等内部造作の価額であります。

3. その他賃借事務所は、連結会社以外から賃借しております。

(3) 子会社の状況

平成27年3月31日現在

会社名 事業所名 (主な所在地)	セグメントの名称	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
		建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
立山貫光ターミナル㈱ 室堂ターミナル (富山県中新川郡立山町)	運輸事業	303,393	-	-	-	303,393	-
立山貫光ターミナル㈱ ホテル立山他 (富山県中新川郡立山町)	ホテル事業	489,057	20,124	- [6,171]	56,205	565,388	87 [110]
立山貫光ターミナル㈱ アルペンルートサービスセンター (富山県中新川郡舟橋村)	その他事業	-	-	98,155 (3,505)	-	98,155	-
立山貫光ターミナル㈱ 本社他 (富山県富山市他)	全社	1,726	5,815	20,917 (4,170)	979	29,439	5
小計		794,178	25,940	119,073 (7,675) [6,171]	57,184	996,376	92 [110]
立山黒部サービス㈱ アルペンルートサービスセンター (富山県中新川郡舟橋村)	運輸事業	-	6,566	-	-	6,566	- [4]
立山黒部サービス㈱ アルペンルートサービスセンター (富山県中新川郡舟橋村)	その他事業	1,714	18,329	-	985	21,028	8 [11]
立山黒部サービス㈱ アルペンルートサービスセンター (富山県中新川郡舟橋村)	全社	41,337	1,590	- [3,505]	2,784	45,712	1
小計		43,051	26,486	- [3,505]	3,769	73,308	9 [15]

立山貫光ターミナル㈱

(A) 運輸事業

名称	所在地	土地		建物及び構築物	摘要
		面積(㎡)	帳簿価額(千円)	帳簿価額(千円)	
室堂ターミナル	富山県中新川郡立山町	-	-	303,393	鉄筋コンクリート造 地下1階地上3階

(B) ホテル事業(従業員87人)

名称	所在地	土地		建物及び構築物	摘要
		面積(㎡)	帳簿価額(千円)	帳簿価額(千円)	
ホテル立山	富山県中新川郡立山町	[6,171]	-	489,057	鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階 客室数85室 収容人員265名

(注) 土地は国有地であり、富山森林管理署より使用許可を受けております。

(C) その他事業

名称	所在地	土地		建物及び構築物
		面積(㎡)	帳簿価額(千円)	帳簿価額(千円)
アルペンルートサービスセンター	富山県中新川郡舟橋村	3,505	98,155	-

(D) 全社(従業員5人)

名称	所在地	土地		建物及び構築物
		面積(㎡)	帳簿価額(千円)	帳簿価額(千円)
本社他	富山県富山市他	4,170	20,917	1,726

立山黒部サービス㈱
(A) 全社（従業員1人）

名称	所在地	土地		建物及び構築物
		面積（㎡）	帳簿価額（千円）	帳簿価額（千円）
アルペンルートサービスセンター	富山県中新川郡舟橋村	[3,505]	-	43,051

（注） 土地は立山貫光ターミナル株式会社から賃借しています。

3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年6月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,291,668	9,291,668	該当なし	単元株式数は100株であります。
計	9,291,668	9,291,668	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成17年10月1日	971	9,291	-	4,160,000	-	-

(注) 立山開発鉄道㈱を吸収合併(合併比率1:1)したことに伴うものであります。

(6)【所有者別状況】

平成27年3月31日現在

区分	株式の状況（ 1 単元の株式数100株）								単元未満株 式の状況 （ 株 ）
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 （ 人 ）	9	14	-	156	-	-	1,265	1,444	-
所有株式数 （ 単元 ）	20,799	12,041	-	52,010	-	-	7,907	92,757	15,968
所有株式数 の割合（ % ）	22.38	12.95	-	55.98	-	-	8.67	100.00	-

(注) 自己株式318,589株は「個人その他」に3,185単元、「単元未満株式の状況」に89株含まれています。

(7) 【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
富山地方鉄道株式会社	富山市桜町 1 丁目 1 番36号	2,223	23.9
富山県	富山市新総曲輪 1 - 7	1,600	17.2
北陸電力株式会社	富山市牛島町15番 1 号	591	6.4
関西電力株式会社	大阪市北区中之島 3 丁目 6 番16号	575	6.2
株式会社北陸銀行	富山市堤町通り 1 丁目 2 - 26	416	4.5
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内 1 丁目 3 番 3 号	416	4.5
関電不動産株式会社	大阪市北区中之島 6 丁目 2 - 27	410	4.4
立山黒部貫光株式会社	富山市桜町 1 丁目 1 番36号	318	3.4
名古屋鉄道株式会社	名古屋市中村区名駅 1 丁目 2 番 4 号	300	3.2
富山市	富山市新桜町 7 - 38	269	2.9
計	-	7,119	76.6

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 318,500	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 8,957,200	89,572	-
単元未満株式	普通株式 15,968	-	一単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	9,291,668	-	-
総株主の議決権	-	89,572	-

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
立山黒部貫光株式会社	富山市桜町一丁目 1 番36号	318,500	-	318,500	3.43
計	-	318,500	-	318,500	3.43

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(単元未満株式の売渡請求による売渡)	989	989,000	-	-
保有自己株式数	318,589	-	318,589	-

(注) 当期間の株式数および処分価額の総額には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれていません。

3【配当政策】

配当の基本的な方針は、経営基盤の強化と今後の設備投資等に必要な内部留保に留意しつつ、期間業績を考慮し、安定かつ継続的に配当を実施していくこととしております。

当社における剰余金の配当は、年1回期末配当を行うこととしており、配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の期末配当につきましては、当期純損失の計上のやむなきに至りましたので、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

4【株価の推移】

市場相場、気配相場ともにありません。

5【役員の状況】

男性19名 女性-名（役員のうち女性の比率-%）

役名	職名	氏名	生年月日	職歴	任期	所有 株式数 (千株)
取締役 社長	代表取締役	佐伯 博	昭和22年8月9日生	昭和46年4月 当社入社 平成15年6月 当社取締役物販事業本部長 平成21年6月 当社常務取締役運輸業務部長兼総務部長 平成22年6月 当社常務取締役総務部長 平成23年6月 当社代表取締役社長（現任）	(注3)	2
専務 取締役	経営企画室長	佐川 栄	昭和25年12月10日生	昭和49年4月 日本開発銀行入社 平成16年8月 アスクル㈱法務マネージャー 平成19年6月 当社取締役経理部長 平成21年6月 当社常務取締役経理部長 平成23年6月 当社専務取締役 平成27年5月 当社専務取締役経営企画室長（現任）	〃	0
常務 取締役	営業推進部長	永崎 泰雄	昭和26年2月12日生	昭和49年4月 当社入社 平成11年12月 立山貫光ターミナル㈱ホテル立山支配人 平成19年6月 当社営業推進部長 平成21年6月 当社取締役物品販売部長 平成23年6月 当社常務取締役営業推進部長（現任）	〃	1
常務 取締役	総務部長	新森 雅夫	昭和27年9月12日生	昭和51年4月 当社入社 平成18年12月 当社運行管理室長 平成22年12月 当社人事部長 平成23年6月 当社取締役総務部長 平成25年6月 当社常務取締役総務部長（現任）	〃	1
取締役		石井 隆一	昭和20年12月15日生	平成14年1月 総務省消防庁長官 平成16年11月 富山県知事（現任） 平成17年6月 当社取締役（現任）	〃	0
取締役		永原 功	昭和23年6月1日生	平成17年6月 北陸電力㈱代表取締役社長 平成22年4月 同社代表取締役会長 平成23年6月 当社取締役（現任） 平成27年6月 北陸電力㈱相談役（現任）	〃	0
取締役		庵 栄伸	昭和31年8月20日生	平成25年6月 ㈱ほくほくフィナンシャルグループ 代表取締役社長（現任） 平成25年6月 ㈱北陸銀行代表取締役頭取（現任） 平成26年6月 当社取締役（現任）	〃	0
取締役		勝田 達規	昭和28年1月8日生	平成25年6月 関西電力㈱常務執行役員総務室担当、経 営監査室担当 平成25年6月 当社取締役（現任） 平成27年6月 関西電力㈱取締役常務執行役員総務室 担当、経営監査室担当（現任）	〃	0
取締役		桑名 博勝	昭和10年6月20日生	平成13年6月 富山地方鉄道㈱代表取締役社長 平成15年6月 当社取締役（～平成23年） 平成25年6月 同社代表取締役社長兼会長 平成25年6月 当社取締役（現任） 平成27年6月 富山地方鉄道㈱代表取締役会長（現任）	〃	1
取締役		森 雅志	昭和27年8月13日生	平成7年4月 富山県議会議員 平成14年1月 旧富山市長 平成14年6月 当社取締役（現任） 平成17年4月 富山市長（現任）	〃	0
取締役		牛越 徹	昭和25年11月23日生	平成17年4月 長野県上伊那地方事務所長 平成18年7月 長野県大町市長（現任） 平成19年6月 当社取締役（現任）	〃	0

役名	職名	氏名	生年月日	職歴	任期	所有 株式数 (千株)
取締役		美尾 邦博	昭和38年9月17日生	平成25年7月 ㈱みずほ銀行企業調査部副部長 平成26年4月 同行富山支店長(現任) 平成26年6月 当社取締役(現任)	〃	0
取締役	経理部長	中川 修	昭和30年3月1日生	昭和52年4月 当社入社 平成19年12月 当社経理部次長 平成23年6月 当社経理部長 平成25年6月 当社取締役経理部長(現任)	〃	0
取締役	運輸事業部長	見角 要	昭和31年3月21日生	昭和53年4月 富山地方鉄道㈱入社 平成23年4月 当社運行管理室長 平成23年12月 当社運輸事業部長 平成25年6月 当社取締役運輸事業部長(現任)	〃	0
取締役		石野 一美	昭和28年12月13日生	昭和54年4月 立山開発鉄道㈱入社 平成23年6月 立山貫光ターミナル㈱ホテル営業部長 平成25年6月 当社取締役(現任) 平成25年6月 立山貫光ターミナル㈱取締役ホテル営業部長(現任)	〃	0
取締役	技術環境部長	高江 均	昭和30年11月24日	昭和54年4月 当社入社 平成21年12月 当社技術環境部次長 平成23年12月 当社運輸事業部次長 平成25年6月 当社技術環境部長 平成27年6月 当社取締役技術環境部長(現任)	〃	0
監査役	常 勤	高平 亮	昭和27年9月6日生	平成22年4月 富山県監査委員事務局長 平成24年4月 当社経営企画室長 平成25年6月 当社常勤監査役(現任)	(注4)	0
監査役	非 常 勤	舟橋 貴之	昭和40年5月17日生	平成10年2月 富山県立山町議会議員 平成18年2月 富山県立山町長(現任) 平成18年6月 当社監査役(現任)	〃	0
監査役	非 常 勤	中田 邦彦	昭和32年8月23日生	平成22年4月 富山地方鉄道㈱自動車部長 平成23年6月 同社取締役経営管理部長 平成27年6月 同社専務取締役(現任) 平成27年6月 当社監査役(現任)	〃	0
計						5

(注) 1. 取締役石井隆一、永原功、庵栄伸、勝田達規、桑名博勝、森雅志、牛越徹、および美尾邦博は「社外取締役」であります。

2. 監査役舟橋貴之、および中田邦彦は、「社外監査役」であります。

3. 平成27年6月26日から選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時。

4. 平成27年6月26日から選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、創業以来の企業理念である、

- ・立山連峰を貫き富山と長野を結ぶことで地域の発展に寄与し、もって日本海側と太平洋側との国土の均衡な発展を図ること
- ・比類ない山岳渓谷美である立山黒部の大自然を守り、後世に伝えること
- ・立山黒部の自然と文化を広く紹介し、現代人に心と体の癒しの場を提供すること

等の実践を全役職員が使命とし、会社の健全な成長・発展を目指すためにコーポレート・ガバナンスの充実が重要な経営課題であると考えております。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

(イ) 会社の機関の内容

(取締役、取締役会)

取締役会は、取締役16名で構成され、うち8名が社外取締役です。各取締役は、意志決定機関および監督機関として法定事項および経営方針等の重要事項に関する決定を行うとともに、業務執行の監督を行っています。

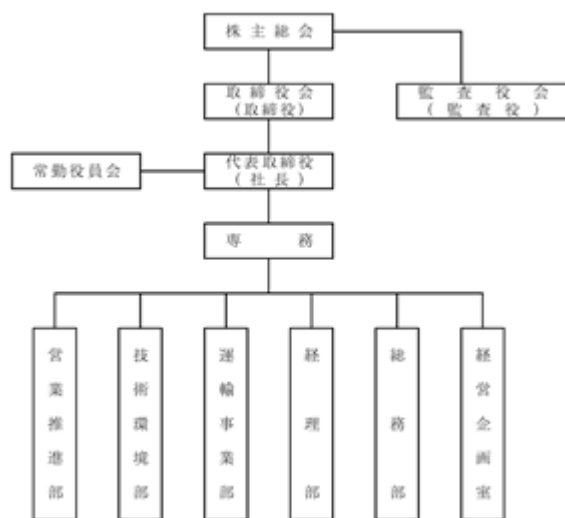
(常勤役員会)

当社は、代表取締役社長の意志決定を補佐する機関として、常勤役員会を設置しています。常勤役員会は、常勤取締役、および常勤監査役で構成され、社長決裁事項や取締役会に提案する事項を審議するとともに、各部門の業務執行状況の把握、監督を行っています。

(監査役、監査役会)

監査役会は監査役3名（常勤監査役1名、非常勤監査役2名）で構成され、うち2名が社外監査役です。各監査役は、監査役会が定めた方針に従い、取締役会その他の重要な会議への出席、子会社を含む業務・財産状況の調査等を通じ、取締役の職務遂行の監査を行っています。

なお、当社の主な経営組織は以下の通りです。



(ロ) 内部統制システムの整備の状況

当社では、会社法第362条第4項第6号および同条第5項の定めに従い、当社取締役会において内部統制に関する基本方針を決議、さらにこの基本方針に基づき関係諸規程を制定し、内部統制の体制整備を進めています。また、社長を委員長とする「内部統制委員会」を設置し、内部統制に関する事項を審議決定することとしています。

内部統制の推進については、取締役社長が指名した内部統制担当取締役（コンプライアンス担当取締役およびリスク担当取締役を兼任）が、年度の「内部統制実施計画」を策定し、各部（室）長が担当部署のコンプライアンス責任者およびリスク管理責任者として、「コンプライアンス規程」、「リスク管理規程」および「内部統制実施計画」等に基づいて、担当部署の内部統制を管理し、あわせて職員への教育、研修を実施しています。

当社では、コンプライアンスを重視する企業風土を醸成するため「立山三社行動指針」と「役員および職員の行動基準」を定めて役職員にその浸透を図るとともに、各部で明示した「コンプライアンス事項」の遵守に努めています。また「コンプライアンスヘルプライン規程」で内部通報制度について定め、「経営管理課」がその窓口になっています。

リスク管理につきましては、全社的なリスクおよび各部署のリスクを明示し、その未然防止策と発生した場合の対応策の策定に取り組むとともに、定期的な防災・救助訓練を実施しています。また「危機管理規程」を制定し、万一の場合の体制を定めています。

業務の効率化につきましては、3事業年度を期間とする中期経営計画を策定するとともに、役職員への権限の委譲と責任を明確化し、会社運営の効率化を図っています。

また、「文書管理規程」を制定し、情報の適切な保存と管理に努めるとともに、「情報開示規程」を制定し、適切な情報開示に努めています。

監査役会および監査役による監査の実効性の確保については、会社に必要な影響を及ぼすと認められる事項についてその内容を速やかに監査役に報告するとともに、内部統制の実施状況を毎年度定期的に監査役会に報告することとしています。

一方、経営目標を共有する立山三社のグループの間では、常に情報交換に努め、適切な関係を保つとともに、内部統制の体制整備について連携協力しています。

(ハ) 内部監査の状況

当社の内部監査は、「内部監査規程」に基づき、経営企画室長または同室長により指名された者が主任監査員を担う他、同室長に指名された者が監査員として、監査を実施しています。また、経営企画室長は、監査役および会計監査人と密接に連携を保っています。

(ニ) 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、山本栄一氏、沖聡氏であり、太陽有限責任監査法人に所属しております。また、会計監査業務に係る補助者は公認会計士6名、その他4名であります。会計監査は、一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施され、当社とは法令及び日本公認会計士協会に規定する利害関係のないことを確認し、「監査約款」に定めるところにより、監査契約を締結しております。

(ホ) 社外取締役及び社外監査役との関係

当社の社外取締役は8名、社外監査役は2名であります。

社外取締役及び社外監査役と当社に特別な利害関係はありません。

(ヘ) 取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。

(ト) 取締役の選任の決議要件

当社は取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

(チ) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項の定めによる株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

リスク管理体制の整備の状況

当社は、中部山岳国立公園内で旅客運送事業を営む者として、「旅客の安全確保」と「大自然の保護保全」という命題について、創業以来一貫して取り組み続けており、これらを達成するための、安全快適な運行管理の徹底、安全と環境に配慮した施設の改良改善、自然環境保全のための諸施策等を、健全な経営基盤確立の大前提となる最優先課題としております。特に、旅客の安全確保につきましては、監督官庁の指導のもと、輸送機関を始め諸施設の整備、管理に万全を尽くすと共に、定期的な訓練、研修等により、運行に携わる者一人一人に法令および諸規程の遵守と安全意識の徹底を図っております。また、万一、事故等が発生した場合の緊急時対応につきましても、「旅客の安全確保」を最優先にマニュアルを整備し、日頃より職員に対しこれらの徹底を図っております。

また、その他業務に関わるすべてのリスクにつきましても、各管理担当部署において適切に把握し、重要施策につきましては、あらかじめ経営機関において対応策を十分検討するようにしております。

役員報酬の内容

当事業年度における、当社の取締役および監査役に対する役員報酬は以下の通りであります。

役員報酬：	取締役役に支払った報酬	取締役	65,681千円
		(うち社外取締役)	(5,040千円)
	監査役に支払った報酬	監査役	9,375千円
		(うち社外監査役)	(960千円)
	(合計)		75,056千円

(注) 1. 上記金額には、役員退職金は含まれておりません。

2. 上記金額には、使用人兼務役員の使用人給与14,400千円は含まれておりません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(円)	非監査業務に基づく報酬(円)	監査証明業務に基づく報酬(円)	非監査業務に基づく報酬(円)
提出会社	14,000,000	-	14,000,000	-
連結子会社	6,500,000	-	6,500,000	-
計	20,500,000	-	20,500,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しています。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)第2条の規定に基づき、同規則及び「鉄道事業会計規則」(昭和62年運輸省令第7号)に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の財務諸表について、太陽有限責任監査法人により監査を受けています。なお、従来、当社が監査証明を受けている太陽A S G有限責任監査法人は、平成26年10月1日に名称を変更し、太陽有限責任監査法人となりました。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っています。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等に的確に対応することができる体制を整備するため、専門的情報を有する団体等が主催する研修に参加する等、情報収集に努めています。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,237,534	1,753,330
売掛金	11,399	10,850
商品及び製品	28,234	16,838
原材料及び貯蔵品	135,354	150,775
繰延税金資産	80,469	121,486
その他	153,010	62,714
流動資産合計	1,646,004	2,115,995
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3 26,349,039	3 26,607,566
減価償却累計額	21,687,408	21,949,557
建物及び構築物（純額）	3 4,661,630	3 4,658,008
機械装置及び運搬具	3 5,619,748	3 5,789,542
減価償却累計額	4,482,974	4,681,845
機械装置及び運搬具（純額）	3 1,136,773	3 1,107,696
土地	2,404,380	2,202,892
建設仮勘定	19,860	2,540
その他	1,508,523	1,477,520
減価償却累計額	1,264,482	1,268,610
その他（純額）	244,041	208,910
有形固定資産合計	1 8,466,686	1 8,180,048
無形固定資産		
ソフトウェア	35,484	35,179
その他	36,617	36,393
無形固定資産合計	72,102	71,573
投資その他の資産		
投資有価証券	1 1,441,866	1 1,507,533
長期貸付金	76,845	73,351
繰延税金資産	5,168	12,107
その他	32,744	29,471
投資その他の資産合計	1,556,624	1,622,463
固定資産合計	10,095,413	9,874,084
資産合計	11,741,417	11,990,080

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	195,319	166,298
短期借入金	¹ 893,500	¹ 814,200
未払消費税等	38,766	123,817
未払法人税等	42,867	21,200
賞与引当金	117,407	119,277
その他	251,799	361,583
流動負債合計	1,539,660	1,606,377
固定負債		
長期借入金	¹ 1,229,600	¹ 1,414,400
退職給付に係る負債	1,600,745	1,615,906
環境対策引当金	18,414	13,969
資産除去債務	49,977	28,413
繰延税金負債	403,167	345,845
負ののれん	² 78,336	² 71,413
長期未払金	29,760	29,080
その他	500	500
固定負債合計	3,410,501	3,519,529
負債合計	4,950,161	5,125,907
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,160,000	4,160,000
資本剰余金	422	422
利益剰余金	1,935,930	1,865,358
自己株式	317,405	316,416
株主資本合計	5,778,946	5,709,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	753,629	823,030
退職給付に係る調整累計額	69,442	-
その他の包括利益累計額合計	684,187	823,030
少数株主持分	328,121	331,778
純資産合計	6,791,255	6,864,173
負債純資産合計	11,741,417	11,990,080

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
営業収益	6,720,900	6,574,035
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	3,842,869	3,890,926
販売費及び一般管理費	¹ 2,648,242	¹ 2,631,461
営業費合計	² 6,491,112	² 6,522,387
営業利益	229,787	51,647
営業外収益		
受取利息	3,675	1,561
受取配当金	3,746	4,018
負ののれん償却額	6,922	6,922
土地物件貸付料	3,705	4,101
業務受託料	8,706	8,090
受取保険金	3,505	7,688
その他	31,551	20,315
営業外収益合計	61,813	52,698
営業外費用		
支払利息	31,765	28,745
その他	461	292
営業外費用合計	32,226	29,037
経常利益	259,374	75,307
特別利益		
固定資産売却益	⁴ 5,488	-
補助金	81,905	35,436
保険差益	47,532	-
特別利益合計	134,926	35,436
特別損失		
固定資産除却損	3,435	7,426
固定資産売却損	⁵ 3,623	-
固定資産圧縮損	122,369	20,022
減損損失	³ 45,171	³ 228,166
その他	400	-
特別損失合計	174,999	255,614
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	219,301	144,871
法人税、住民税及び事業税	33,900	23,700
法人税等調整額	16,335	88,714
法人税等合計	17,564	65,014
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	201,737	79,856
少数株主利益又は少数株主損失()	4,470	9,285
当期純利益又は当期純損失()	197,267	70,571

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	201,737	79,856
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,728	82,342
退職給付に係る調整額	-	69,442
その他の包括利益合計	4,728	151,785
包括利益	206,466	71,928
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	200,517	68,272
少数株主に係る包括利益	5,949	3,656

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,160,000	422	1,738,662	317,565	5,581,519
当期変動額					
当期純利益又は当期純損失 （ ）			197,267		197,267
自己株式の処分				160	160
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	197,267	160	197,427
当期末残高	4,160,000	422	1,935,930	317,405	5,778,946

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	退職給付に係る調整 累計額	その他の包括利益累 計額合計		
当期首残高	750,380	-	750,380	322,172	6,654,072
当期変動額					
当期純利益又は当期純損失 （ ）					197,267
自己株式の処分					160
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,249	69,442	66,192	5,949	60,243
当期変動額合計	3,249	69,442	66,192	5,949	137,183
当期末残高	753,629	69,442	684,187	328,121	6,791,255

当連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,160,000	422	1,935,930	317,405	5,778,946
当期変動額					
当期純利益又は当期純損失 （ ）			70,571		70,571
自己株式の処分				989	989
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計			70,571	989	69,582
当期末残高	4,160,000	422	1,865,358	316,416	5,709,364

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	退職給付に係る調整 累計額	その他の包括利益累 計額合計		
当期首残高	753,629	69,442	684,187	328,121	6,791,255
当期変動額					
当期純利益又は当期純損失 （ ）					70,571
自己株式の処分					989
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	69,400	69,442	138,843	3,656	142,499
当期変動額合計	69,400	69,442	138,843	3,656	72,917
当期末残高	823,030	0	823,030	331,778	6,864,173

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失（ ）	219,301	144,871
減価償却費	636,693	628,518
負ののれん償却額	6,922	6,922
減損損失	45,171	228,166
有形固定資産除却損	3,435	7,426
有形固定資産売却損益（ は益 ）	1,885	2,123
固定資産圧縮損	122,369	20,022
補助金収入	81,905	35,436
保険差益	47,532	-
賞与引当金の増減額（ は減少 ）	2,685	1,869
環境対策引当金の増減額（ は減少 ）	1,280	4,445
退職給付に係る負債の増減額（ は減少 ）	40,472	84,717
受取利息及び受取配当金	7,421	5,580
支払利息	31,765	28,745
売上債権の増減額（ は増加 ）	5,216	548
未収入金の増減額（ は増加 ）	86,014	82,875
たな卸資産の増減額（ は増加 ）	24,138	4,024
支払手形の増減額（ は減少 ）	22,068	29,384
仕入債務の増減額（ は減少 ）	17,218	11,100
未払金の増減額（ は減少 ）	30,201	17,939
未払消費税等の増減額（ は減少 ）	71	85,050
その他	9,610	1,773
小計	808,835	1,002,534
利息及び配当金の受取額	7,438	5,594
利息の支払額	31,362	28,748
保険金の受取額	48,889	-
法人税等の支払額	16,789	47,092
営業活動によるキャッシュ・フロー	817,011	932,288
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	11,000	10,000
定期預金の払戻による収入	11,000	11,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	710,227	559,292
有形固定資産の売却による収入	16,310	3,837
固定資産の除却による支出	11,964	10,219
貸付金の回収による収入	4,349	4,244
敷金の回収による収入	300,416	-
その他の支出	1,033	460
その他の収入	82,141	38,909
投資活動によるキャッシュ・フロー	320,007	521,981

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,232,000	681,000
短期借入金の返済による支出	2,725,000	784,000
長期借入れによる収入	360,000	600,000
長期借入金の返済による支出	418,000	391,500
自己株式の売却による収入	160	989
財務活動によるキャッシュ・フロー	550,840	106,489
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	53,835	516,795
現金及び現金同等物の期首残高	1,280,370	1,226,534
現金及び現金同等物の期末残高	1,226,534	1,743,330

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

連結子会社は、立山貫光ターミナル株式会社、立山黒部サービス株式会社であります。

2. 持分法の適用に関する事項

(イ)持分法適用の関連会社の数 1社

会社名 粟巣野観光開発株式会社

(ロ)持分法を適用していない関連会社である富山地鉄自動車整備株式会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しています。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社2社の決算日は、いずれも3月31日であり、当社の連結決算日と一致しています。

4. 会計処理基準に関する事項

(1)重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ)有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

...決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。)

時価のないもの

...移動平均法による原価法

(ロ)たな卸資産

評価基準は先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっています。

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ)有形固定資産

当社及び立山黒部サービス株式会社

定率法によっています。

ただし、弥陀ヶ原ホテルにかかる固定資産については定額法によっています。

立山貫光ターミナル株式会社

建物(附属設備を含む)及び構築物については定率法、それ以外については定額法によっています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 4～20年

(ロ)無形固定資産

定額法によっています。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいています。

(3)重要な引当金の計上基準

(イ)貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ)賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しています。

(ハ)環境対策引当金

P C B廃棄物を処理するに当たり、その処理費用見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、自己都合による期末要支給額相当額を計上しております。

会計基準変更時差異の取扱いについては、税効果を調整の上、純資産の部における「その他の包括利益累計額」の「退職給付に係る調整累計額」に計上しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間の定額法により償却を行っております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

(イ) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取保険金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立区分掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた35,056千円は、「受取保険金」3,505千円、「その他」31,551千円として組替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
建物及び構築物	3,489,428 (2,659,232)千円	4,167,863 (2,676,449)千円
機械装置及び運搬具	752,789 (752,789)	785,639 (785,639)
土地	523,591 (523,591)	327,663 (323,201)
その他	42,768 (42,768)	37,419 (37,419)
投資有価証券	720,000	720,000
計	5,528,578 (3,978,382)	6,038,585 (3,822,710)

担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
短期借入金	391,500 (391,500)千円	415,200 (415,200)千円
長期借入金	1,229,600 (1,229,600)	1,414,400 (1,414,400)
計	1,621,100 (1,621,100)	1,829,600 (1,829,600)

上記のうち、()内書は財団抵当並びに当該債務を示しております。

2 前連結会計年度(平成26年3月31日)

負ののれん78,336千円は、のれん18,543千円を相殺後の金額であります。

当連結会計年度(平成27年3月31日)

負ののれん71,413千円は、のれん17,063千円を相殺後の金額であります。

3 固定資産の圧縮記帳

補助金の受入れにより取得した資産の圧縮累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
建物及び構築物	111,822千円	121,822千円
機械装置及び運搬具	36,355千円	46,377千円
計	148,177千円	168,199千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
給与	715,997千円	682,914千円
臨時雇用者賃金	306,749	314,442
賞与引当金繰入額	51,274	50,272
退職給付費用	96,706	90,319

2 営業費に含まれている引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
賞与引当金繰入額	117,407	119,277
退職給付費用	220,393	210,892

3 当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しています。

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

場所	用途	種類	金額
富山県黒部市他	遊休資産	土地	1,932千円
富山県立山町	ホテル事業	建物	43,238千円
計			45,171 "

当社グループは、継続的に損益の把握を実施している管理会計上の単位である事業グループ別にグルーピングを行っています。ただし、将来の使用が見込まれていない遊休資産などは、個別の資産グループとして取り扱っています。

上記資産のうち、遊休資産については、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。またホテル事業固定資産については、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、収益性の低下・市場価格の著しい下落により、投資額を回収する目途が立たないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定士による鑑定結果等の適切に市場価格を反映していると考えられる評価額を基に算出し評価しております。

当連結会計年度（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日）

場所	用途	種類	金額
富山県黒部市	ホテル事業	土地	200,390千円
富山県黒部市	ホテル事業	機械装置	410千円
富山県黒部市	ホテル事業	工具器具備品	21,465千円
富山県立山町	ホテル事業	機械装置	337千円
富山県立山町	ホテル事業	工具器具備品	4,464千円
富山県富山市他	遊休資産	土地	1,098千円
計			228,166 "

当社グループは、継続的に損益の把握を実施している管理会計上の単位である事業グループ別にグルーピングを行っています。ただし、将来の使用が見込まれていない遊休資産などは、個別の資産グループとして取り扱っています。

上記資産のうち、遊休資産については、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。またホテル事業固定資産については、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、収益性の低下により、投資額を回収する目途が立たないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお回収可能価額は正味売却価額又は使用価値により測定しております。正味売却価額は、主として不動産鑑定士による評価額等をもとに算出しております。また、使用価値は、将来キャッシュ・フローが見込めないためゼロと評価しております。

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	
車輛	684千円	車輛	- 千円
土地	4,804千円	土地	- 千円
計	5,488千円	計	- 千円

5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	
車輛	3,623千円	車輛	- 千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	5,501千円	65,666千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	5,501	65,666
税効果額	772	16,676
その他有価証券評価差額金	4,728	82,342
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	-	-
組替調整額	-	69,556
税効果調整前	-	69,556
税効果額	-	113
退職給付に係る調整額	-	69,442
その他の包括利益合計	4,728	151,785

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末株 式数(千株)
発行済株式				
普通株式	9,291	-	-	9,291
合計	9,291	-	-	9,291
自己株式				
普通株式 (注)1	319	-	0	319
合計	319	-	0	319

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の減少160株は、単元未満株式の売渡しによる減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末株 式数(千株)
発行済株式				
普通株式	9,291	-	-	9,291
合計	9,291	-	-	9,291
自己株式				
普通株式 (注)1	319	-	0	318
合計	319	-	0	318

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の減少989株は、単元未満株式の売渡しによる減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
現金及び預金勘定	1,237,534千円	1,753,330千円
預入期間が3か月を超える定期預金	11,000	10,000
現金及び現金同等物	1,226,534	1,743,330

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

１．金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運賃、売掛金は、取引先旅行会社及び顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、取引先企業に関連する株式で、市場価額の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、３ヶ月以内の支払期日であります。

借入金は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、弁済日は決算日後、最長で９年４ヶ月後であります。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理マニュアルに従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門における営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を管理しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、経理部が適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

２．金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度（平成26年３月31日）

	連結貸借対照表 計上額（ ）	時価（ ）	差額
(1)現金及び預金	1,237,534 千円	1,237,534 千円	- 千円
(2)投資有価証券 其他有価証券	1,434,208 千円	1,434,208 千円	- 千円
(3)短期借入金	(502,000) 千円	(502,000) 千円	- 千円
(4)長期借入金	(1,621,100) 千円	(1,622,189) 千円	1,089 千円

（ ）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成27年３月31日）

	連結貸借対照表 計上額（ ）	時価（ ）	差額
(1)現金及び預金	1,753,330 千円	1,753,330 千円	- 千円
(2)投資有価証券 其他有価証券	1,499,875 千円	1,499,875 千円	- 千円
(3)短期借入金	(399,000) 千円	(399,000) 千円	- 千円
(4)長期借入金	(1,829,600) 千円	(1,842,821) 千円	13,221 千円

（ ）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1)現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

(3)短期借入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
非上場株式	7,658千円	7,658千円

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(2)投資有価証券その他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	241,000	-	-	-

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	745,000	-	-	-

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	502,000	-	-	-	-	-
長期借入金	391,500	329,000	269,000	223,200	137,200	271,200
合計	893,500	329,000	269,000	223,200	137,200	271,200

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	399,000	-	-	-	-	-
長期借入金	415,200	355,200	309,400	223,400	183,400	343,000
合計	814,200	355,200	309,400	223,400	183,400	343,000

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,432,568	290,301	1,142,267
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,432,568	290,301	1,142,267
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,640	1,790	150
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,640	1,790	150
合計		1,434,208	292,091	1,142,117

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,499,875	292,091	1,207,783
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,499,875	292,091	1,207,783
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		1,499,875	292,091	1,207,783

(デリバティブ取引関係)

. 前連結会計年度(平成26年3月31日)

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益の状況については重要性が乏しいため、記載を省略しております。

. 当連結会計年度(平成27年3月31日)

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益の状況については重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(退職給付会計)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職一時金制度を設けています。また、従業員等の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,629,829 千円	1,600,745 千円
退職給付費用	150,837	141,335
退職給付の支払額	179,921	126,174
退職給付に係る負債の期末残高	1,600,745	1,615,906

(2) 退職給付費用

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	150,837 千円	141,335 千円
会計基準変更時差異の費用処理額	69,556	69,556
退職給付費用	220,393	210,891

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
	千円	千円
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	565,063	530,017
減価償却費	36,138 "	34,824 "
賞与引当金	47,204 "	44,632 "
未払事業税	5,284 "	3,435 "
繰越欠損金	168,507 "	122,672 "
減損損失	377,308 "	415,737 "
長期末払金	10,505 "	8,623 "
資産除去債務	16,269 "	9,319 "
環境対策引当金	6,500 "	4,581 "
貸倒引当金	8,119 "	7,298 "
その他	887 "	931 "
繰延税金資産小計	1,241,787 "	1,182,072 "
評価性引当額	1,156,149 "	1,006,744 "
繰延税金資産合計	85,637 "	175,327 "
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	390,453 "	386,490 "
その他	12,713 "	1,088 "
繰延税金負債合計	403,167 "	387,579 "
繰延税金資産(負債)の純額	317,529 "	212,251 "

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産(負債)の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれています。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	80,469 千円	121,486 千円
固定資産 - 繰延税金資産	5,168	12,107
固定負債 - 繰延税金負債	403,167	345,845

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	37.7%	
(調整)		当連結会計年度は、税金等調整前当期純損失を計上しているため、記載を省略しています。
住民税均等割	4.8 "	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6 "	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3 "	
評価性引当額	37.1 "	
負ののれん償却額	1.2 "	
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.8 "	
その他	1.7 "	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	8.0 "	

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）及び「地方税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第2号）が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引き下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の35.3%から平成27年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については32.8%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については32.0%となります。

この税率変更により、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）は26,622千円減少し、その他有価証券評価差額金が39,856千円、法人税等調整額が13,234千円、それぞれ増加しております。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

建物解体時におけるアスベスト除去費用であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

建物解体時に発生するアスベスト除去費用は、当該債務にかかる建物の撤去する期間に応じて8年～17年と見積り、割引率は1.360～1.854%を使用して資産除去債務の金額を算出しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
期首残高	26,277 千円	49,977 千円
時の経過による調整額	349 "	355 "
資産除去債務の履行による減少額	- "	18,595 "
その他増減額（ は減少）	23,350 "	3,324 "
期末残高	49,977 "	28,413 "

(セグメント情報等)
【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検証を行う対象となっているものであります。

当社グループは、業種別の事業会社を置き、各事業会社は、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業会社を基礎としたセグメントから構成されており、「運輸事業」「ホテル事業」及び「構内販売事業」の3つを報告セグメントとしております。

「運輸事業」は、立山黒部アルペンルートにおけるケーブルカー、路線バス、トロリーバス、ロープウェイの運行を行っております。「ホテル事業」は、立山黒部アルペンルートにおいてホテル2館の営業、宇奈月温泉においてホテル1館の営業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	運輸事業	ホテル事業	構内販売事業	計				
営業収益								
外部顧客への売上高	3,547,535	2,551,314	582,089	6,680,939	39,960	6,720,900	-	6,720,900
セグメント間の内部 売上高又は振替高	567	4,218	61	4,847	204,232	209,080	209,080	-
計	3,548,103	2,555,532	582,151	6,685,787	244,193	6,929,980	209,080	6,720,900
セグメント利益又は損 失()	336,556	216,417	75,541	195,680	15,576	211,256	18,531	229,787
セグメント資産	3,620,078	2,653,145	207,119	6,480,343	142,353	6,622,697	5,118,720	11,741,417
減価償却費	441,601	170,896	13,544	626,043	10,650	636,693	-	636,693
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	643,849	326,303	13,294	983,446	17,127	1,000,574	-	1,000,574

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品販売事業、建物等賃貸事業、業務受託事業等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額18,531千円には、セグメント間取引消去17,879千円及び棚卸資産の調整額190千円、固定資産の減損損失の償却認容額461千円が含まれています。

(2)セグメント資産の調整額5,118,720千円には、債権の相殺消去 76,492千円、全社資産 5,196,192千円、棚卸資産の調整額 980千円が含まれています。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	運輸事業	ホテル事業	構内販売事業	計				
営業収益								
外部顧客への売上高	3,505,849	2,439,755	589,441	6,535,045	38,989	6,574,035	-	6,574,035
セグメント間の内部売上高又は振替高	550	6,449	86	7,086	206,089	213,175	213,175	-
計	3,506,399	2,446,205	589,527	6,542,132	245,078	6,787,210	213,175	6,574,035
セグメント利益又は損失（ ）	201,862	252,828	59,862	8,897	25,360	34,257	17,389	51,647
セグメント資産	3,650,836	2,335,423	212,812	6,199,072	128,919	6,327,991	5,662,088	11,990,080
減価償却費	423,129	173,955	17,269	614,353	14,164	628,518	-	628,518
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	443,269	115,784	31,119	590,173	9,476	599,649	-	599,649

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品販売事業、建物等賃貸事業、業務受託事業等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額17,389千円には、セグメント間取引消去16,518千円及び棚卸資産の調整額 324千円、固定資産の減損損失の償却認容額1,196千円が含まれています。

(2)セグメント資産の調整額5,662,088千円には、債権の相殺消去 84,220千円、全社資産 5,747,545千円、棚卸資産の調整額 1,235千円が含まれています。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

１．製品及びサービスごとの情報

当社グループは、製品及びサービスに基づいてセグメントを区分しているため、記載を省略しております。

２．地域ごとの情報

（１）売上高

連結損益計算書の売上高に区分した金額がすべて国内での売上高であるため、記載を省略しております。

（２）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

３．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の１０％以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

１．製品及びサービスごとの情報

当社グループは、製品及びサービスに基づいてセグメントを区分しているため、記載を省略しております。

２．地域ごとの情報

（１）売上高

連結損益計算書の売上高に区分した金額がすべて国内での売上高であるため、記載を省略しております。

（２）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

３．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の１０％以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：千円）

	運輸事業	ホテル事業	構内販売事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	43,238	-	-	1,932	45,171

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	運輸事業	ホテル事業	構内販売事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	227,067	-	-	1,098	228,166

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：千円）

	運輸事業	ホテル事業	構内販売事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	-	1,479	1,479
当期末残高	-	-	-	-	18,543	18,543

平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：千円）

	運輸事業	ホテル事業	構内販売事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	-	8,401	8,401
当期末残高	-	-	-	-	96,879	96,879

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	運輸事業	ホテル事業	構内販売事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	-	1,479	1,479
当期末残高	-	-	-	-	17,063	17,063

平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：千円）

	運輸事業	ホテル事業	構内販売事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	-	8,401	8,401
当期末残高	-	-	-	-	88,477	88,477

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成25年4月 1 日 至平成26年3月31日）

関連当事者との取引

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月 1 日 至平成27年3月31日）

関連当事者との取引

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	
1 株当たり純資産額	720.35円	1 株当たり純資産額	727.99円
1 株当たり当期純利益金額	21.98円	1 株当たり当期純損失金額 ()	7.86円

(注) 1 . 当連結会計年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については 1 株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 . 1 株当たり当期純利益金額又は 1 株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
当期純利益金額又は当期純損失金額 () (千円)	197,267	70,571
普通株式に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額 () (千円)	197,267	70,571
期中平均株式数 (千株)	8,972	8,972

3 . 1 株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前連結会計年度末 (平成26年3月31日)	当連結会計年度末 (平成27年3月31日)
純資産の部の合計額 (千円)	6,791,255	6,864,173
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	328,121	331,778
(うち少数株主持分) (千円)	(328,121)	(331,778)
普通株式に係る期末の純資産額 (千円)	6,463,134	6,532,395
1 株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (千株)	8,972	8,973

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	502,000	399,000	1.48	-
1年以内に返済予定の長期借入金	391,500	415,200	1.45	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,229,600	1,414,400	1.45	平成28年7月31日～ 平成36年7月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
計	2,123,100	2,228,600	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しています。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金(千円)	355,200	309,400	223,400	183,400

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	707,056	1,054,138
売掛金	314	20
未収金	94,613	13,033
商品	15,697	9,879
飲食材料品	3,327	4,812
貯蔵品	81,173	96,197
前払金	27,151	24,275
前払費用	2,623	2,810
繰延税金資産	59,033	91,279
立替金	935	667
その他の流動資産	15,498	9,804
流動資産合計	1,007,425	1,306,918
固定資産		
鋼索鉄道事業固定資産		
有形固定資産	3 5,240,648	3 5,296,877
減価償却累計額	3,728,609	3,873,262
有形固定資産（純額）	1,512,038	1,423,615
無形固定資産	253	253
鋼索鉄道事業固定資産合計	1, 3 1,512,292	1, 3 1,423,869
普通索道事業固定資産		
有形固定資産	3 4,101,618	3 4,196,899
減価償却累計額	3,386,310	3,452,496
有形固定資産（純額）	715,308	744,403
普通索道事業固定資産合計	1, 3 715,308	1, 3 744,403
無軌条電車事業固定資産		
有形固定資産	7,645,937	7,647,710
減価償却累計額	6,965,894	7,008,593
有形固定資産（純額）	680,043	639,116
無軌条電車事業固定資産合計	680,043	639,116
自動車事業固定資産		
有形固定資産	3 1,597,419	3 1,765,394
減価償却累計額	1,258,738	1,317,725
有形固定資産（純額）	338,680	447,668
無形固定資産	1,476	1,249
自動車事業固定資産合計	1, 3 340,156	1, 3 448,918
構内販売その他事業固定資産		
有形固定資産	8,191,705	8,015,587
減価償却累計額	5,908,902	6,006,556
有形固定資産（純額）	2,282,802	2,009,031
無形固定資産	28,219	28,683
構内販売その他事業固定資産合計	1 2,311,022	1 2,037,715
各事業関連固定資産		
有形固定資産	2,946,899	2,956,479

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
減価償却累計額	1,021,857	1,023,290
有形固定資産（純額）	1,925,042	1,933,188
無形固定資産	32,206	27,549
各事業関連固定資産合計	1 1,957,248	1 1,960,738
その他の固定資産		
有形固定資産	239,719	234,228
減価償却累計額	179,762	179,762
有形固定資産（純額）	59,957	54,465
その他の固定資産合計	1 59,957	1 54,465
建設仮勘定		
鉄道事業	-	2,540
建設仮勘定合計	-	2,540
投資その他の資産		
投資有価証券	76,294	97,160
関係会社株式	1 1,943,844	1 1,943,844
出資金	1,690	1,690
長期貸付金	7,845	6,601
関係会社長期貸付金	92,000	89,000
敷金及び保証金	59,664	59,676
その他の投資等	3,928	3,943
貸倒引当金	23,000	22,250
投資その他の資産合計	2,162,267	2,179,666
固定資産合計	9,738,296	9,491,434
資産合計	10,745,721	10,798,353

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年 3 月31日)	当事業年度 (平成27年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	2 120,809	2 99,288
短期借入金	502,000	399,000
1年内返済予定の長期借入金	1 391,500	1 395,200
買掛金	2,315	2,272
未払金	175,649	278,034
未払費用	13,491	15,497
未払消費税等	30,785	76,418
未払法人税等	35,555	12,488
預り金	6,117	5,395
賞与引当金	78,280	81,565
その他	1,226	1,407
流動負債合計	1,357,731	1,366,569
固定負債		
長期借入金	1 1,229,600	1 1,334,400
退職給付引当金	1,079,078	1,124,401
環境対策引当金	14,127	9,812
資産除去債務	49,977	28,413
繰延税金負債	390,453	319,984
長期末払金	26,970	26,290
その他の固定負債	1,100	1,390
固定負債合計	2,791,307	2,844,692
負債合計	4,149,039	4,211,261
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,160,000	4,160,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	422	422
資本剰余金合計	422	422
利益剰余金		
利益準備金	477,838	477,838
その他利益剰余金		
別途積立金	1,300,000	1,300,000
繰越利益剰余金	263,579	202,309
利益剰余金合計	2,041,418	1,980,148
自己株式	320,805	319,816
株主資本合計	5,881,034	5,820,753
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	715,647	766,338
評価・換算差額等合計	715,647	766,338
純資産合計	6,596,682	6,587,091
負債純資産合計	10,745,721	10,798,353

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
鋼索鉄道事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	842,048	831,810
運輸雑収	1 4,792	1 4,772
鋼索鉄道事業営業収益合計	846,840	836,583
営業費		
運送営業費	632,511	668,842
一般管理費	80,124	84,369
諸税	16,564	21,533
減価償却費	190,842	167,670
鋼索鉄道事業営業費合計	920,042	942,416
鋼索鉄道事業営業損失()	73,201	105,833
普通索道事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	649,270	636,089
運輸雑収	2 1,698	2 1,417
普通索道事業営業収益合計	650,969	637,506
営業費		
運送営業費	367,855	428,874
一般管理費	45,441	54,101
諸税	12,663	12,083
減価償却費	91,887	81,485
普通索道事業営業費合計	517,848	576,545
普通索道事業営業利益	133,120	60,960
無軌条電車事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	1,040,764	1,027,235
運輸雑収	3 2,075	3 1,742
無軌条電車事業営業収益合計	1,042,840	1,028,977
営業費		
運送営業費	636,615	633,101
一般管理費	80,883	79,863
諸税	13,234	12,404
減価償却費	62,094	56,296
無軌条電車事業営業費合計	792,828	781,666
無軌条電車事業営業利益	250,011	247,311
自動車事業営業利益		
営業収益		
旅客運送収入	972,839	967,592
運輸雑収	4 7,695	4 7,348
自動車事業営業収益合計	980,535	974,941
営業費		
運送営業費	873,910	877,114
一般管理費	98,946	97,108
諸税	11,702	11,304
減価償却費	86,451	105,409
自動車事業営業費合計	1,071,010	1,090,936
自動車事業営業損失()	90,475	115,995

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
構内販売その他事業営業利益		
営業収益		
売店収入	458,529	451,350
食堂収入	114,830	125,474
その他収入	118,790	122,703
構内販売その他事業営業収益合計	692,151	699,527
営業費		
売上原価	296,013	298,843
販売費及び一般管理費	286,432	254,402
諸税	29,168	35,463
減価償却費	101,132	109,482
構内販売その他事業営業費合計	712,747	698,191
構内販売その他事業営業利益又は営業損失()	20,595	1,336
全事業営業利益	198,859	87,779
営業外収益		
受取利息	3,517	1,399
受取配当金	1,346	1,455
建物その他賃貸料	5 11,934	5 12,329
業務受託料	8,706	8,090
受取保険金	3,505	7,688
雑収入	28,447	20,586
営業外収益合計	57,457	51,550
営業外費用		
支払利息	31,749	28,639
固定資産除却損	1,278	4,771
固定資産売却損	7 3,515	7 120
雑支出	74	95
営業外費用合計	36,619	33,626
経常利益	219,697	105,703
特別利益		
固定資産売却益	6 4,838	-
補助金	81,905	10,022
保険差益	47,532	-
特別利益合計	134,276	10,022
特別損失		
減損損失	1,932	223,364
固定資産圧縮損	122,369	10,022
特別損失合計	124,301	233,386
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	229,672	117,660
法人税、住民税及び事業税	27,000	16,500
法人税等調整額	17,386	72,890
法人税等合計	9,613	56,390
当期純利益又は当期純損失()	220,058	61,270

【営業費明細表】

		前事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)			当事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)		
区分	注記 番号	金額 (千円)			金額 (千円)		
鋼索鉄道事業営業費	1			920,042			942,416
1 運送営業費							
人件費		401,445			409,266		
経費		231,066			259,576		
計			632,511			668,842	
2 一般管理費							
人件費		62,216			64,480		
経費		17,907			19,888		
計			80,124			84,369	
3 諸税			16,564			21,533	
4 減価償却費		190,842		167,670			
鋼索鉄道事業営業費合計							
普通索道事業営業費	2			517,848			576,545
1 運送営業費							
人件費		217,474			216,089		
経費		150,381			212,785		
計			367,855			428,874	
2 一般管理費							
人件費		35,311			41,347		
経費		10,130			12,753		
計			45,441			54,101	
3 諸税			12,663			12,083	
4 減価償却費		91,887		81,485			
普通索道事業営業費合計							
無軌条電車事業営業費	3			792,828			781,666
1 運送営業費							
人件費		339,736			331,733		
経費		296,879			301,367		
計			636,615			633,101	
2 一般管理費							
人件費		62,802			61,037		
経費		18,081			18,826		
計			80,883			79,863	
3 諸税			13,234			12,404	
4 減価償却費		62,094		56,296			
無軌条電車事業営業費合計							

		前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)			当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		
区分	注記 番号	金額(千円)			金額(千円)		
自動車事業営業費	4						
1 運送営業費							
人件費		441,098			435,016		
経費		432,811			442,097		
計			873,910			877,114	
2 販売費及び一般管理費							
人件費		76,800			74,216		
経費		22,145			22,891		
計			98,946			97,108	
3 諸税			11,702			11,304	
4 減価償却費			86,451			105,409	
自動車事業営業費合計				1,071,010			1,090,936
構内販売その他事業営業費	5						
1 売上原価			296,013			298,843	
2 販売費及び一般管理費							
人件費		161,834			166,653		
経費		124,598			87,748		
計			286,432			254,402	
3 諸税			29,168			35,463	
4 減価償却費			101,132			109,482	
構内販売その他事業営業費 合計				712,747			698,191
全事業営業費合計	6			4,014,477			4,089,755

事業別営業費合計の100分の5を超える主な費用並びに営業費（全事業）に含まれている引当金繰入額は次のとおりであります。

		前事業年度	当事業年度
(注) 1 鋼索鉄道事業営業費	運送営業費		
	給与	289,528 千円	277,913 千円
	法定福利費	52,782 "	53,352 "
	修繕費	39,489 "	59,562 "
2 普通索道事業営業費	運送営業費		
	給与	158,455 "	155,358 "
	法定福利費	28,966 "	29,324 "
	修繕費	29,350 "	80,683 "
	乗車券販売手数料	26,341 "	26,535 "
3 無軌条電車事業営業費	運送営業費		
	給与	239,726 "	228,298 "
	法定福利費	44,972 "	44,545 "
	賃借料	141,905 "	140,483 "
	乗車券販売手数料	43,080	43,498
4 自動車事業営業費	運送営業費		
	給与	328,910 "	325,513 "
	法定福利費	57,377 "	58,032 "
	有料道路通行料	106,014 "	107,276 "
	賃借料	66,626 "	68,575 "
5 構内販売その他事業営業費	販売費及び一般管理費		
	給与	73,800 "	66,136 "
	臨時雇用者賃金	33,930 "	43,087 "
	賃借料	31,369 "	16,957 "
6 営業費（全事業）に含まれている 引当金繰入額	賞与引当金繰入額	78,280 "	81,565 "
	退職給付引当金繰入額	157,484 "	145,992 "

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日）

（単位：千円）

（単位：円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				自己株式	株主資本 合計
		その他資本 剰余金	資本剰余 金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余 金合計		
					別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	4,160,000	422	422	477,838	2,200,000	856,479	1,821,359	320,965	5,660,815
当期変動額									
別途積立金の取崩					900,000	900,000	-		-
当期純利益又は当期純損失 （　）						220,058	220,058		220,058
自己株式の処分								160	160
株主資本以外の項目の当期変 動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	900,000	1,120,058	220,058	160	220,218
当期末残高	4,160,000	422	422	477,838	1,300,000	263,579	2,041,418	320,805	5,881,034

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	714,231	714,231	6,375,047
当期変動額			
別途積立金の取崩			-
当期純利益又は当期純損失（ ）			220,058
自己株式の処分			160
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,416	1,416	1,416
当期変動額合計	1,416	1,416	221,635
当期末残高	715,647	715,647	6,596,682

当事業年度（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日）

(単位：千円)

（単位：円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	4,160,000	422	422	477,838	1,300,000	263,579	2,041,418	320,805	5,881,034
当期変動額									
別途積立金の取崩									
当期純利益又は当期純損失（　）						61,270	61,270		61,270
自己株式の処分								989	989
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	61,270	61,270	989	60,281
当期末残高	4,160,000	422	422	477,838	1,300,000	202,309	1,980,148	319,816	5,820,753

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	715,647	715,647	6,596,682
当期変動額			
別途積立金の取崩			
当期純利益又は当期純損失（ ）			61,270
自己株式の処分			989
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	50,690	50,690	50,690
当期変動額合計	50,690	50,690	9,590
当期末残高	766,338	766,338	6,587,091

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっています。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

...決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。)

時価のないもの

...移動平均法による原価法

2. たな卸資産(商品・飲食材料品・貯蔵品)の評価基準及び評価方法

評価基準は先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっています。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

賃貸施設(弥陀ヶ原ホテル)有形固定資産は定額法、その他固定資産は定率法によっています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 4～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっています。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいています。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

関係会社貸付金、その他債権等の貸倒損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しています。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付に関する会計基準に定める簡便法(退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法)によっています。

なお、会計基準変更時差異(695,527千円)については、15年による均等額を費用処理しています。

(4) 環境対策引当金

P C B廃棄物を処理するに当たり、その処理費用見込額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「雑収入」に含めていた「受取保険金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立区分掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「雑収入」に表示していた31,952千円は、「受取保険金」3,505千円、「雑収入」28,447千円として組替えております。

(貸借対照表関係)

(1 ~ 2 については貸借対照表の該当箇所参照)

1 固定資産を次のとおり財団抵当及び不動産抵当に供しています。

(担保簿価)

	前事業年度 (平成26年 3月31日)	当事業年度 (平成27年 3月31日)
(鉄道財団)		
鋼索鉄道事業固定資産	1,506,703千円	1,418,912千円
普通索道事業固定資産	417,949 "	490,574 "
無軌条電車事業固定資産	679,076 "	638,255 "
構内販売その他事業固定資産	142,893 "	135,105 "
各事業関連固定資産	93,117 "	110,503 "
計	2,839,740 "	2,793,352 "
(道路交通財団)		
自動車事業固定資産	284,281 "	391,283 "
その他の固定資産	148 "	148 "
計	284,429 "	391,431 "
(観光施設財団)		
構内販売その他事業固定資産	854,212 "	637,926 "
計	854,212 "	637,926 "
(不動産抵当)		
構内販売その他事業固定資産等	975,058 "	936,925 "
計	975,058 "	936,925 "
合 計	4,953,441 "	4,759,635 "

(有価証券担保)

	前事業年度 (平成26年 3月31日)	当事業年度 (平成27年 3月31日)
関係会社株式	720,000千円	720,000千円

(当該債務)

	前事業年度 (平成26年 3月31日)	当事業年度 (平成27年 3月31日)
長期借入金	1,229,600千円	1,334,400千円
1年以内返済長期借入金	391,500 "	395,200 "
合 計	1,621,100 "	1,729,600 "

2 支払手形

前事業年度(平成26年 3月31日)

120,809千円の内110,322千円は建設工事支払金であります。

当事業年度(平成27年 3月31日)

99,288千円の内90,734千円は建設工事支払金であります。

3 固定資産の圧縮記帳

補助金の受入れにより取得した資産の圧縮累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年 3月31日)	当事業年度 (平成27年 3月31日)
自動車事業固定資産	36,355千円	46,377千円
鋼索鉄道事業固定資産	69,970千円	69,970千円
普通索道事業固定資産	41,851千円	41,851千円
計	148,177千円	158,199千円

(損益計算書関係)

(1 ~ 6 については損益計算書の該当箇所参照)

1 鋼索鉄道事業運輸雑収の内訳

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
手廻品持込料	1,382千円	1,193千円
手廻品一時預り料	21 "	13 "
乗車券払戻手数料	25 "	19 "
連絡運輸乗車券販売手数料	2,961 "	3,388 "
雑入	401 "	157 "
計	4,792 "	4,772 "

2 普通索道事業運輸雑収の内訳

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
手廻品持込料	1,376千円	1,180千円
乗車券払戻手数料	13 "	8 "
連絡運輸乗車券販売手数料	0 "	91 "
雑入	307 "	135 "
計	1,698 "	1,417 "

3 無軌条電車事業運輸雑収の内訳

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
手廻品持込料	1,376千円	1,180千円
手廻品一時預り料	38 "	55 "
乗車券払戻手数料	28 "	25 "
連絡運輸乗車券販売手数料	129 "	257 "
雑入	502 "	222 "
計	2,075 "	1,742 "

4 自動車事業運輸雑収の内訳

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
手廻品持込料	7,210千円	7,054千円
乗車券払戻手数料	22 "	15 "
連絡運輸乗車券販売手数料	1 "	121 "
雑収入	461 "	156 "
計	7,695 "	7,348 "

5 関係会社に対する事項

営業外収益

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物その他賃貸料	8,228千円	8,228千円

6 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
車輛	34千円	- 千円
土地	4,804千円	- 千円
計	4,838千円	- 千円

7 資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
車輛	3,515千円	車輛 120千円

(有価証券関係)

前事業年度(平成26年3月31日)

関係会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式705,000千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成27年3月31日)

関係会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式705,000千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
	千円	千円
繰延税金資産		
退職給付引当金	380,914 "	368,803 "
減価償却費	28,139 "	26,213 "
賞与引当金	31,469 "	30,513 "
未払事業税	4,117 "	2,381 "
減損損失	326,171 "	367,039 "
役員退職慰労引当金	9,520 "	8,623 "
資産除去債務	16,269 "	9,319 "
環境対策引当金	4,987 "	3,218 "
貸倒引当金	8,119 "	7,298 "
繰越欠損金	144,957 "	98,400 "
その他	353 "	328 "
繰延税金資産小計	955,018 "	922,139 "
評価性引当額	895,984 "	789,127 "
繰延税金資産合計	59,033 "	133,012 "
繰延税金負債		
資産除去債務	-	1,088 "
その他有価証券評価差額金	390,453 "	360,629 "
繰延税金負債合計	390,453 "	361,718 "
繰延税金資産(負債)の純額	331,419 "	228,705 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	37.7%	
(調整)		
住民税均等割	4.0 "	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5 "	当事業年度は、税引前
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1 "	
評価性引当額	33.8 "	当期純損失を計上して
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.2 "	
その他	5.3 "	いるため、記載を省略
税効果会計適用後の法人税等の負担率	4.2 "	しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税等の引き下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.3%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については32.8%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については32.0%となります。

この税率変更により、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)は27,134千円減少し、その他有価証券評価差額金が37,189千円、法人税等調整額が10,055千円、それぞれ増加しております。

（重要な後発事象）
該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄			株式数（株）	貸借対照表計上額 （千円）
投資有価証券	その他有価証券	(株)ほくほくフィナンシャルグループ	236,000	63,248
		(株)八十二銀行	12,000	10,176
		(株)みずほフィナンシャルグループ	33,000	6,966
		(株)富山第一銀行	10,000	6,500
		富山空港ターミナルビル(株)	450	4,500
		(株)たてやま	200	2,000
		(株)富山銀行	10,000	2,620
		呉羽観光(株)	15	825
		富山県いきいき物産(株)	40	197
		その他（ 6 銘柄 ）	92,084	128
		小計	393,789	97,160
		計		-

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却累計 額(千円)
有形固定資産						
土地	2,285,307	-	201,488 (201,488)	-	2,083,819	-
建物	2,900,882	210,122	7,079	184,514	2,919,411	9,710,773
構築物	1,079,203	53,208	940	86,058	1,045,411	7,708,933
機械装置	630,316	387	410 (410)	92,794	537,499	2,263,622
車輛	438,310	202,282	1,713	121,109	517,770	2,206,475
工具器具備品	179,851	16,501	23,084 (21,465)	25,691	147,577	971,882
建設仮勘定	-	606,132	603,591	-	2,540	-
有形固定資産計	7,513,873	1,088,633	838,308 (223,364)	510,168	7,254,030	22,861,687
無形固定資産						
商標権	213	-	-	213	-	-
ソフトウェア	27,164	5,758	-	9,963	22,960	-
温泉利用権	20,000	-	-	-	20,000	-
電話加入権	14,777	-	-	-	14,777	-
無形固定資産計	62,155	5,758	-	10,176	57,737	-

(注) 1. 当期増加額及び当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

(増加)	建物	普通索道事業	大観峰駅舎南面外壁改修	59,578	千円
	構築物	各事業関連	立山トンネル高圧ケーブル更新	21,202	"
	車輛	自動車事業	営業用ハイブリッドバス3両購入	126,938	"
(減少)	建物	鋼索鉄道事業	立山駅便所改修(除却)	3,075	"
	車輛	自動車事業	ロータリー除雪車売却	1,400	"

2. ()内は内書きで減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	23,000	-	750	22,250
賞与引当金	78,280	81,565	78,280	81,565
環境対策引当金	14,127	2,093	6,409	9,812

(２) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(３) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	10,000株券、1,000株券、100株券
剰余金の配当基準日	3月31日
1 単元の株式数	100株
株式の名義書換 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料	東京都中央区日本橋茅場町一丁目 2 番 4 号 日本証券代行株式会社 本店 東京都中央区日本橋茅場町一丁目 2 番 4 号 日本証券代行株式会社 日本証券代行株式会社 支店 三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店 無料
単元未満株式の買取り・買増し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・買増手数料	東京都中央区日本橋茅場町一丁目 2 番 4 号 日本証券代行株式会社 本店 東京都中央区日本橋茅場町一丁目 2 番 4 号 日本証券代行株式会社 日本証券代行株式会社 支店 三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	北日本新聞
株主に対する特典	100株以上の株主に対し当社優待乗車券の発行

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

- | | | | |
|-------------------------|-----------------|-------------------------------|--------------------------|
| (1) 有価証券報告書
及びその添付書類 | 事業年度
(第50期) | (自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日) | 平成26年6月27日
北陸財務局長に提出 |
| (2) 半期報告書 | 事業年度
(第51期中) | (自 平成26年4月1日
至 平成26年9月30日) | 平成26年12月26日
北陸財務局長に提出 |
| (3) 半期報告書の
訂正報告書 | 事業年度
(第49期中) | (自 平成24年4月1日
至 平成24年9月30日) | 平成27年6月25日
北陸財務局長に提出 |
| (4) 有価証券報告書の
訂正報告書 | 事業年度
(第49期) | (自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日) | 平成27年6月25日
北陸財務局長に提出 |
| (5) 半期報告書の
訂正報告書 | 事業年度
(第50期中) | (自 平成25年4月1日
至 平成25年9月30日) | 平成27年6月25日
北陸財務局長に提出 |
| (6) 有価証券報告書の
訂正報告書 | 事業年度
(第50期) | (自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日) | 平成27年6月25日
北陸財務局長に提出 |
| (7) 半期報告書の
訂正報告書 | 事業年度
(第51期中) | (自 平成26年4月1日
至 平成26年9月30日) | 平成27年6月25日
北陸財務局長に提出 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成27年6月29日

立山黒部貫光株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 栄一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沖 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている立山黒部貫光株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、立山黒部貫光株式会社及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成 2 7 年 6 月 2 9 日

立山黒部貫光株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 栄 一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沖 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第 1 9 3 条の 2 第 1 項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている立山黒部貫光株式会社の平成 2 6 年 4 月 1 日から平成 2 7 年 3 月 3 1 日までの第 5 1 期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、立山黒部貫光株式会社の平成 2 7 年 3 月 3 1 日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。